

車体NEWS

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

SUMMER 2009 夏

CONTENTS

巻頭言	1
特集	2009年度通常総会開催 新役員体制発足
NEWS特集	15
	・雇用調整助成金制度および中小企業金融対策が更に充実 (平成21年度補正予算)
NEWS FLASH	
本部だより	17
部会だより	19
支部だより	21
官公庁だより	22
部会・委員会紹介	第14回 近畿支部
Net Work	vol.56 イワフジ工業(株)
VOICE	29
SUPIN UP	第4回
そこが知りたい	第8回
Coffee Break	35
我が社の元気人	37
DATA BOX	車体生産台数 2009年1月～3月
	2008年度車体生産台数
編集後記	47



URL: www.jabia.or.jp/ E-mail: info@jabia.or.jp



2009 年度 総会挨拶

大不況を乗り越え 車体業界に再びの繁栄を

本日は、社団法人日本自動車車体工業会の第 39 回通常総会を開催するにあたって会員の皆様方にはかくも多数ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて日本経済は昨年秋のリーマンショック以降急減速し、100 年に一度の世界同時不況と言われる程まで悪化してしまい、国内自動車登録台数は 289 万台と 37 年前のレベルにまで落ち込んでしまいました。

更に商用車の落ち込みは大きく、中大型貨物車は 6 万 3 千台と昨年比で 26% の減少、特に直近の 3 カ月は 50% 近い減少となっています。

当会会員の 2008 年度生産台数をみますと前年度比で 14% 減の 242 万台となっておりますが、これも直近の 3 カ月で見ますと約半減という厳しい台数となっています。

当会の会員状況をみますと、昨年度は 5 社入会、7 社退会と 2 社減少となりましたが、退会理由は架装業からの撤退や倒産などでした。しかしながら非会員会社の規模縮小のために当会の会員カバー率は前年比で 1.4% 上昇し 95.7% となり、日本の車体業界のほとんどをカバーできていることが確認できました。

このような中、昨年度、当会は

- (1) 環境対応自主取組みの推進
- (2) 安全対応活動の推進
- (3) 会員への支援サービスの充実
- (4) 当会の活性化
- (5) 創立 60 周年記念事業

の 5 項目を重点活動として取り組んできました。

(1) 「環境対策の推進」では、CO₂ 削減活動を 2008 年度から自動車工業会と一体化しました。これは当会生産の約 9 割が自動車工業会会員からの

委託であるため、相互に連携を取り、相乗効果を狙ったもので、目標も一層高くし「2010 年の排出量を 1990 年比 22% 削減」としました。最新の集計結果では、会員各位のご努力により目標達成目処も立ちつつあります。

塗装工程での VOC の削減は、「2010 年原単位を 2000 年比 50% 削減の目標に対し 2008 年度の集計では 42.6% 削減」と順調に進んでおり、産業廃棄物の削減では「1990 年度比 83% 削減」の目標を達成させることができました。

また架装車両の環境対応としてリサイクルしやすい車体の普及や鉛や六価クロムなどの環境負荷物質の使用削減などに取組んできました。

(2) 安全対策の推進では、リアバンパー取り付け位置やリアナンバープレート視認性改善への意見反映、また再帰反射材の取り付け、リアバンパー強度アップなどの法規変更への円滑な対応を進めるとともにコンプライアンス最優先の徹底活動を進め大きな成果をあげることができました。

(3) 「会員への支援サービスの向上」に関しては、昨年度は特に中小企業の皆様へのいろいろな情報提供を充実させてきました。ご存知のように年度後半から、資金繰り対策として信用保証制度の充実や休業時の雇用調整補助金制度の充実など、めまぐるしく制度改訂がありましたが、タイムリーに皆様に展開し、説明会を実施や相談窓口の設定等を行いました。

(4) 当会活動の活性化に関しては ①部会活動充実化 ②支部活動充実化 ③事務局強化 ④広報活動強化 ⑤会員カバー率の向上に取り組む、いろいろな面で成果が出せたかと判断しております。

また当会は、昨年、創立 60 周年という人間で言えば還暦という記念すべき節目を迎えることができました。これもひとえに皆様の長年のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。昨年秋にはこの記

会長 久保地理介
(トヨタ車体㈱・相談役)



念事業として、歴史的に価値のある車体技術をまとめた「歴史に残る 働くクルマたち」という記念史の発行や記念の会員大会を盛大に開催することができました。

なお今年 1 月には経営環境の急激な悪化に伴ない、急遽正会員の会費低減を決定し、1 社当たり平均 11 万円を返却するとともに、緊急費用削減活動も進めましたが、なんとか収入に見合った決算とすることもできました。

さて、本年は当会の役員改選の年になっており、私は今回、会長職を辞することになりました。

新会長挨拶

「会員支援サービスの充実」を最優先に

高木 茂 (日産車体㈱・取締役社長)

会員皆様のご推挙により車体工業会の会長を努めることになりました高木でございます。60 年のすばらしい歴史をもった団体の長ということで、私にはたいへん荷が重い役目ですが、田中副会長、比企副会長、安田副会長はじめ会員の皆様全員のご協力を得ながら、精一杯運営していききたいと思います。

久保地前会長におかれましては、高い理想と先見性をもって車体工業会を牽引いただき、先ほどの事業報告にもありましたように多くの成果をあげることができました。たいへん感謝申し上げますとともに今後とも新しい立場でのご指導をよろしくお願いいたします。

さて、一部では今年度後半からは景気も回復する見通しも出ておりますが、商用車国内市場はまだ減少が続くと予測されています。

この厳しい環境の中、先ほどご審議いただき

この 2 年間の任期中はジェットコースターのよう激しい環境変化でありましたが、多少なりとも成果をあげることができたと自負しております。これもひとえに会員の皆様のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げる次第であります。

しかしながらやり残したことも多数ございまして、最大の課題はこの大不況を乗り越え、車体業界にふたたび繁栄をもたらすことと思います。今後とも新しい役員を中心に会員の皆様が一丸となってこの難局を乗り切っていただきますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

したように、当会は「会員支援サービスの充実」を最優先課題として取り組めます。

当会活動の大前提が「会員企業の繁栄」であることを念頭におきまして、皆様に一層役立つ車体工業会を目指して活動を進めてまいります。

具体的には久保地前会長が推進された「業界標準の作成」や「新規部品の共通化・共同開発によるコスト低減」、あるいは技術的な規制緩和の要請活動など前向きな事業を継続、充実させていきたいと考えております。

会員の皆様方には、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



2009 年度通常総会開催

新役員体制発足

当工業会の 2009 年度（第 39 回）通常総会は、5 月 22 日 15 時 30 分からホテルパシフィック東京において盛大に開催された。

総会の概要は次のとおりである。

◆出席者数

正会員 65 社
 " 委任状による出席 91 社
 (総数 162 社のうち) 計 156 社
 準会員 37 社

◆来賓（敬称略）

○官庁関係

経済産業省製造産業局自動車課 中嶋課長補佐
 国土交通省自動車交通局技術安全部審査課 江角課長

1. 開会

香村事務局次長が開会を宣言し、まず久保地会長が挨拶、続いて定款第 24 条により久保地会長が議長に選出された。

続いて事務局より出席会員数について、本総会が適法に成立する旨の報告があり、更に総会議事録署名者に北村理事と堀尾理事の 2 名が指名された。

2. 議事

- 第 1 号議案 2008 年度（第 39 期）事業報告の件
- 第 2 号議案 2008 年度（第 39 期）決算報告の件
- 第 3 号議案 2009 年度（第 40 期）事業計画案の件
- 第 4 号議案 2009 年度（第 40 期）収支予算案の件
- 第 5 号議案 2009・2010 年度役員選任の件



新役員体制は次のとおり。

会長 高木 茂 理事（昇任）
 副会長 安田 淳次 理事（新任）
 副会長 田中 勝志 理事（留任）
 副会長 比企 能信 理事（留任）
 専務理事 橋本 茂 理事（留任）

また、相談役には、添田広政、岩崎充男、内川 晋、内山眞成、久保地理介の 5 氏が選任された。

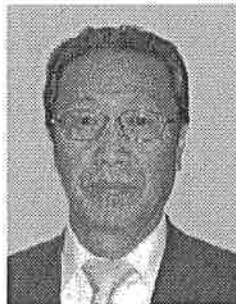
議事終了後、退任役員に対する感謝状の贈呈、工業会功労者、永年在籍会員に対する表彰、また今回初めての表彰となる優良従業員表彰が行われた。その後、来賓を代表して経済産業省中嶋課長補並びに国土交通省江角課長からそれぞれ祝辞をいただいた。引き続き懇親会に入り、18 時 30 分過ぎ、盛会のうちに幕を閉じた。



高木会長
 (日産車体㈱)



安田副会長
 (関東自動車工業㈱)



田中副会長
 (極東開発工業㈱)



比企副会長
 (日本フルハーフ㈱)



橋本専務理事
 (車体工業会)

来賓挨拶

(株)日本自動車車体工業会の通常総会および工業会功労者、永年在籍会員、優良従業員の皆様の表彰式が滞りなく終了しましたことをお慶び申し上げます。

まず、本日まで退任された久保地前会長および役員の皆様また協会加盟各社の皆様には日頃から当省の行政にご協力をいただき、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。高木新会長および新役員の皆様には今後とも引き続きよろしくお願いします。

さて、深刻度を増す「世界金融危機」と戦後最大の「世界同時不況」の中で、わが国経済もまた、大きく打撃を受け、1-3 月の GDP が戦後最大のマイナス成長となったことが明らかになりました。

政府としては、昨年 8 月以降 5 つの経済対策を策定し、景気経済対策に取り組んできているところです。

具体的には、当省関係では、緊急的な対策として中小企業支援の強化を行うとともに中堅企業、大企業向けにもそれぞれに対応した資金繰り支援措置を実施いたしました。更に、当課関係では自動車の買換え補助

経済産業省 製造産業局
 自動車課課長補佐

中嶋 誠



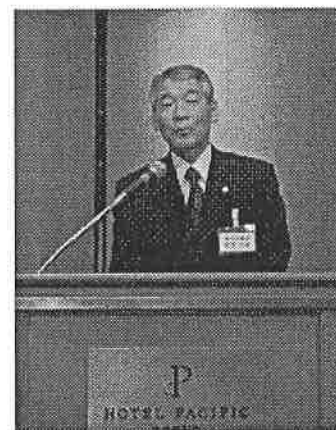
金対策を策定したところです。この政策の実行には補正予算の成立が必要ですが、ようやく衆議院を通過し、参議院で審議が進み、具体化に向けて着実に進んでいるところです。

報道によると 5 月 25 日に発表される月例経済報告の景気の基調判断が 3 年 3 ヶ月ぶりに上方修正されとのこと。また、景気について最悪の時期は脱したとの声も聞こえています。

自動車車体工業界においては厳しい状況にあるとうかがっていますが、経済産業省としては、日本経済を回復させ、自動車車体工業界においても良い環境が整うよう取組んでいきたいと考えております。

自動車車体工業会が引き続き、業界の健全な発展のため積極的な役割を担われ、自動車車体工業界がこの困難な時代を乗り越えての一層御発展されることを心から祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

■懇親会風景



新任の挨拶をする高木新会長



安田新副会長の
 発声で乾杯



多いに賑わった
 懇親会

来賓挨拶

国土交通省 自動車交通局
技術安全部審査課長

江角 直樹



国土交通省自動車交通局審査課長の江角でございます。皆様方には、日頃から国土交通行政に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本日は(株)日本自動車車体工業会第39回通常総会が滞りなく終了されましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴会は、トラックの車体や各種バス、特装車両の架装やトレーラの製作などの事業を通じ、日本の経済活動を支え、豊かな国民生活を実現するために貢献され、昨年設立60周年を迎えられました。本日退任されました久保地前会長をはじめとし、これまでの関係者の方々のご努力の賜であり、改めて敬意を表する次第です。また、今年度は、新たに会長に就任されました高木新会長の初年度でございます。70周年に向け、意義のある年となりますことを期待しております。

昨今の経済危機が自動車関連産業にも深刻な影響を与えているものと憂慮しています。

このため、政府としましては、昨年度来、数次にわたる経済対策、予算、税制改正等により、支援策を強力に推進してまいりました。具体的には、本年4月から環境性能のよい次世代自動車等について自動車重量税等の大幅な軽減を図りました。更に、新たな経済対策である「経済危機対策」においても、環境性能に優れた新車購入等に対する助成制度を創設することとしたところで。

これらの制度を有効に活用していただき、事業基盤の安定を図っていただいたうえで、より安全な自動車を製作・供給し、また、地球温暖化対策や循環型社会形成へ取り組んでいただきますことを期待しております。

道路交通事故による死者数は近年減少してきており、平成20年は5,155人で行われました。第1次交通戦争と言われた昭和45年の3分の1、第2次交通戦争と言われた平成2年の2分の1にまで減少してきています。これを受けて、本年年頭に麻生首相から、今後10年間を目途に、交通事故死者数を更に半減させるとの目標が示されたところです。国土交通省では、この目標を達成するため、先進安全自動車の開発・実用化・普及促進、安全基準の充実・強化、自動車アセスメントの実施などの車両安全対策を一層推進してまいります。

また、事業用自動車による事故につきましても、本年3月、国土交通省として独自に、今後10年間で半減するという目標を設定し、「事業用自動車総合安全プラン2009」を策定したところであり、このプランも強力に推進してまいります。

皆様方におかれましては、従来にも増して国土交通行政に対してご理解とご協力をお願いする次第であります。

今国会の懸案事項の1つでありました「消費者庁」につきましては、関連法案が一部修正のうえ4月17日に衆議院を通過しました。早ければ、本年10月にも内閣府の外局として消費者庁が設置される見込みと言われております。自動車のリコール関係業務は、従来どおり道路運送車両法に基づき国土交通省が担いですが、自動車の品質に対する国民の目は益々厳しくなると思われます。皆様方におかれましては、自社の製品について、不具合や事故の情報を積極的に収集・報告していただくとともに、必要な市場措置と新車の品質向上を的確に講じることにより、ユーザーの信頼を得ていただきたいと思います。

併せて、二次架装や完成検査の不正といったコンプライアンスの問題につきましても、現場任せにせず、経営トップの方々のコンプライアンスについての強い決意を全従業員に浸透させることにより、ユーザーからの信頼を揺るぎないものとして益々発展されますよう期待しております。

最後となりましたが、日本自動車車体工業会および会員各位の今後益々のご発展と、本日ご臨席の皆様のご健勝・ご繁栄を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

2009・2010 年度 理事・監事・相談役

(自 2009年5月22日)
(至 2011年5月20日)

(注) ○…2008年度通常総会以降に就任 *…2009年度通常総会にて就任 ()は兼任

区 分	氏 名	会 社 名	会 社 役 職	工 業 会 役 職
本 部 役 員	高木 茂	日産車体(株)	取締役社長	会長
	安田 善次	関東自動車工業(株)	取締役会長	副会長
	田中 勝志	極東開発工業(株)	取締役会長	副会長
	比企 能信	日本フルハーフ(株)	取締役社長	副会長
トラック 部会	堀尾 浩二	不二自動車工業(株)	取締役社長	部会長
	落合 轟	司工業(株)	取締役社長	
	山田 和典	山田車体工業(株)	取締役社長	
バス部会	* 柴田 計	ジェイ・バス(株)	取締役副社長	部会長
	田中 真二	三菱ふそうバス製造(株)	取締役社長	
特装部会	筆谷 高明	極東開発工業(株)	取締役社長	部会長 四国支部長兼務
	久保 哲也	(株)タダノ	執行役員	
	○ 佐々木敬博	カヤバ工業(株)	理事特装車両事業部長	
	○ 加藤 幹章	新明和工業(株)	常務執行役員特装車事業部長	
小型部会	水嶋 敏夫	トヨタ車体(株)	取締役社長	部会長
	* 渡辺 義章	日産車体(株)	顧問	
	石井 完治	セントラル自動車(株)	取締役社長	
特種部会	古庄 忠信	(株)イズミ車体製作所	取締役社長	部会長
	林田 廣一	(株)林田製作所	取締役社長	
	五島 洋	京成自動車工業(株)	取締役社長	
トレーラ 部会	西川柳一郎	日本トレクス(株)	取締役社長	部会長
	沼部 宣司	小平産業(株)	常務取締役	
	○ 柏倉 陽一	東急車輛製造(株)	取締役	
バン部会	川本 豊	日本フルハーフ(株)	取締役	部会長 新潟支部長兼務
	北村 泰作	(株)北村製作所	取締役社長	
	* 萩原 慶彦	東プレ(株)	代表取締役専務取締役	
資材部会	杉本 眞	レシップ(株)	取締役社長	部会長
	福西 紀雄	天龍工業(株)	取締役会長	
支 部	原 忠彦	北海道車体(株)	取締役社長	北海道支部長 東北支部長 新潟支部長 関東支部長 中部支部長 近畿支部長 四国支部長 中国支部長 九州支部長
	磯野 栄治	(株)いそのボデー	取締役社長	
	(北村 泰作	(株)北村製作所	取締役社長	
	荒井 直人	富士重工業(株)	執行役員	
	山崎 茂雄	(株)東海特装車	取締役社長	
	堀口 昇一	須河車体(株)	取締役会長	
	(久保 哲也	(株)タダノ	執行役員	
	大上 力夫	(株)大上自動車工業	取締役社長	
	矢野 羊祐	(株)矢野特殊自動車	取締役会長	
事務局	橋本 茂	車体工業会	—	専務理事・事務局長
計 35 名 (定数 40 名以内)				
監 事	犬塚 敏樹	(株)犬塚製作所	取締役社長	
	元谷 忠	—	—	
	* 加藤 寛	(株)相模ボデー	取締役社長	
計 3 名 (定数 3 名以内)				

相 談 役 内川 晋・久保地 理介・添田 広政・岩崎 充男・内山 眞成

退任理事・監事感謝状および車体工業会功労者表彰

会社名および役職は 2009 年 5 月 22 日現在による。

◎退任理事感謝状 (7 名)

久保 地理 介
高井 雅 義
井上 善 量
倉持 弘 海
黒川 学 氏
阿部 文 夫
吉村 太 朗

トヨタ車体(株)
東急車輛製造(株)
元：新明和工業(株)
元(株)パプコ
西日本車体工業(株)
カヤバ工業(株)
ジェイ・バス(株)

相談役
専務取締役
常務執行役員特装車事業部長
顧問
代表専務取締役
理事特装車両事業部長
取締役社長

◎車体工業会功労者表彰

●本部関係 (3 名)

高場 常 喜 広報委員会
杉村 勝 美 〃
小林 孝 宏 モーターショー企画委員会

鉄道車輛工業(株)
日本トレクス(株)
(株)タダノ

取締役社長
取締役営業本部副本部長兼西日本営業部長
営業開発部広報グループマネージャー

●部会関係 (14 名)

川本 裕 治 ト ラ ッ ク
柴田 和 典 〃
山田 善 雄 〃
小林 修 特 装
佐藤 孝 雄 〃
行安 健 一 〃
田中 敏 夫 特 種
曾我 善 規 ト レ ー ラ
芳崎 春 樹 〃
桑鶴 洋 二 バ ン
伊藤 洋 一 〃
清水 貞 雄 資 材
鈴木 久 康 〃
吉田 茂 〃

(株)トランテックス
(株)矢野特殊自動車
山田車体工業(株)
(株)モリタエコノス
極東開発工業(株)
新明和オートエンジニアリング(株)
(株)オーテックジャパン
日本フルハーフ(株)
東急車輛製造(株)
日本トレクス(株)
日本フルハーフ(株)
(株)五光製作所
天龍工業(株)
住友スリーエム(株)

開発設計室課長
特装事業部営業部部長
取締役企画室長
営業統括部営業推進部長
特装事業部サービス推進部部長
サービス本部副本部長
第一開発部部長
サービス部部長
特装自動車事業部設計第2部設計課主査
トラック設計室室長
設計部部長
特別顧問
技術本部バスシート開発部部長
官公庁マーケットセンターマネージャー

●支部関係 (1 名)

吉永 英 明 中 部 支 部 (株)日本自動車車体工業会

事務局長

◎車体工業会優良従業員表彰 (10 名)

武田 勝 彦 ト ラ ッ ク
新帯 活 佑 〃
竹内 紀 之 〃
小室 智 義 〃
高橋 豊 克 特 装
近藤 貴 博 〃
鈴木 聡 特 種
藤井 久 義 〃
中村 浩 二 〃
府川 孝 佳 バ ン

(株)いそのボデー
名古屋ボデー(株)
(株)浜名ワークス
不二自動車工業(株)
イワフジ工業(株)
(株)瑞穂
(株)アスカ・アイテック
京成自動車工業(株)
(株)竹内ボデー工場
山田車体工業(株)

車両製作事業部係長
顧問
製造部塗装グループ長
工務課班長
開発部メカグループ課長
技術部課長
営業部 CE 技師
資材課係長
製造部工場長
製造部部長

◎ 2009 年工業会永年在籍会員表彰

正会員	60年	1社	北海道車体(株)
	50年	2社	(株)クラタ、山田車体工業(株)
	40年	3社	(株)アイビックス、(株)野口自動車、範多機械(株)
	30年	5社	岩崎工業(株)、(株)河野ボデー製作所、(株)相模ボデー、鈴木車体工業(株)、竹腰工業(株)
	10年	2社	(株)テイセンテクノ (株)瑞穂
準会員	20年	1社	タキゲン製造(株)
	10年	2社	三輪精機(株)、リフレクサイト(株)

新任理事／新任監事



柏倉 陽一氏
(東急車輛製造(株))



佐々木 敬博氏
(カヤバ工業(株))



加藤 幹章氏
(新明和工業(株))



柴田 計氏
(ジェイ・バス(株))



渡辺 義章氏
(日産車体(株))



萩原 慶彦氏
(東プレ(株))



加藤 寛氏
(株)相模ボデー
新任監事

退任理事



久保地 理介氏
(トヨタ車体(株))



高井 雅義氏
(東急車輛製造(株))



井上 善量氏
(元・新明和工業(株))



倉持 弘海氏
(元・(株)パプコ)



黒川 学氏
(西日本車体工業(株))



阿部 文夫氏
(カヤバ工業(株))



吉村 太郎氏
(ジェイ・バス(株))

車体工業会功労者表彰

●本部／支部 功労者表彰



左から高場氏、杉村氏、小林氏、吉永氏

●部会／委員会 功労者表彰



左から川本氏、柴田氏、山田氏、小林氏、佐藤氏、行安氏

永年在籍会員表彰



左から北海道車体(株)、(株)クラタ、山田車体工業(株)、(株)アイビックス、
(株)野口自動車、範多機械(株)



左から(株)河野ボデー、タキゲン製造(株)、(株)瑞穂
三輪精機(株)、リフレクサイト(株)

優良従業員表彰



後列左から近藤氏、鈴木氏、藤井氏、中村氏、府川氏
前列左から武田氏、竹内氏、小室氏、高橋氏

※写真掲載は総会に出席された皆様

2009年度事業計画

本 部 計 画

1. 取り巻く環境

(1) 商用車市場動向

昨秋のリーマンショック以後、米国・欧州・日本の実体経済は後退局面に入り、新興国も急減速となっている。日本経済の落ち込みも外需依存産業から全産業に波及し未曾有の不景気となっているが、回復には長期間を要するという見方が多くなってきている。

商用車国内需要は2007年度から2年連続で大きく落ち込んだが、2009年もまだ低迷が続く見通しとなっており、中大型車は年間5万台強という1990年比1/4近くのたいへん厳しいレベルが予測されている。

年度↓	車種→	普通貨物	(→うち大中型)	小型貨物	大型バス	小型バス
2007年度実績(千台)		166	85	280	5.3	10.0
2008年度実績(千台)		128	63	227	5.0	9.8
(対前年度比 %)		(76.7)	(74.0)	(81.7)	(93.5)	(98.3)
2009年度見通し(千台)		104	52	184	4.0	9.5
(対前年度比 %)		(61)	(62)	(61)	(80)	(88)

＜国内需要：(社)日本自動車工業会 予測台数＞

船舶輸送、鉄道輸送へのモダルシフトの動きは遅く、全輸送に対するトラック輸送分担率は引き続き増加しているが、輸送業者の経営実態も厳しさが増し、平均使用年数の延長傾向は続いている。しかしながら政府は商用車で20～180万円の買い換え補助金制度も含んでいる緊急経済危機対策をまとめ国会審議中であり、この効果が期待されている。

輸送費削減や改正省エネ法目標達成のため、輸送効率向上の重要度が増しており、車両大型化、トレーラ化、集中配送や積載率向上によるグリーン物流化が進みつつある。具体的には営業車(緑ナンバー)比率やレンタカー需要が増加しており、実車率や積載率アップに向けて特定目的積載車から大型の汎用輸送車への流れがみられる。

昨年前半まで続いた資源国、新興国での旺盛な商用車の海外需要も急速に縮小し、海外中古商用車需要に支えられた下取り車の高価格化が国内買換え需要の一助にもなっていたが、それも暴落しており新車代替への影響も出てきている。

特装車のアジアでの現地生産化計画の進捗により現

地生産比率は高まりつつあるが、特装車輸入に関してはまだ一部の部品に限られている。

(2) 車体業界の動向

車体架装業界は需要が落ち込む中、架装メーカーの系列化、シャシメーカー標準車の増加、大手企業での寡占化、架装メーカーの得意分野への特化が進みつつある。それに伴い、架装メーカー間の相互OEM供給やキット販売が増加し、バンや平ボデーでは比較的安価な標準仕様車の割合が増加している。

また原材料価格については昨夏をピークに下がり、ほぼ3年まえのレベルに戻っている。

昨今の車体業界を取巻く環境変化のうち考慮すべき項目として下記がある。

① 台数の大幅減少に伴う経営危機

→選択と集中化、業界再編、雇用調整助成金や金融支援策での生き残り戦略

② シャシメーカーでの完成車ビジネスの強化、系列強化

→シャシメーカー標準車の増加、架装メーカーは改造レベルの作業増加

③ 要求技術の多様化 → 開発投資の重荷化

- ・燃費向上や積載量確保のための軽量化設計
特にポスト新長期対応に伴う重量アップの吸収
- ・汎用積載化、積載効率アップ、荷役容易性
アップの商品力競争
- ・バンパー、灯火器、反射板等の法規変更対応
- ・環境対応のための材料や構造の見直し
(リサイクル性、環境負荷物質制限)
- ・生産時の環境対応(CO₂、VOC、産業廃棄物削減)・生産管理の緻密化(納入日程短期化、在庫リスク軽減、受注山谷の平準化)

④ 高車齢化に伴う車体メンテナンス、アフターパーツ販売の収益事業化

⑤ 特装車輸出比率のアップ、特装車現地生産化推進

⑥ トレーラへの要望増加…安全対策向上や省エネへのトレーラ有用性への期待

⑦ コンプライアンス経営の徹底

(3) 車体工業会活動実績と課題

創立60周年という節目を迎え、周辺環境の変化に伴ない重点活動項目も見直したが、各委員会、各部会の積極的な活動により次のような成果が得られた。

- 1) 地球温暖化対応(CO₂削減)の円滑な推進体制確立…JAI工会との一体的活動化
- 2) 60周年記念事業の完遂…車体技術史の制作発行・年史の制作発行・記念式典
- 3) 調査研究活動の計画通りの推進…技術委員会でのフォロー充実で7件中6件終了
- 4) 中小企業支援活動充実化…積極的な情報収集と会員展開量の拡大 → 19件
- 5) 委員会活動の活性化…部会横断的課題への対応や部会支援
- 6) 緊急経費削減活動…事業の緊急の見直し、費用削減、会費低減決定

反面、次の項目がうまく進まず、方策を見直していく必要がある

- 1) 環境対応活動のうち環境負荷物質調査活動
- 2) 部会での部品/装置の共同開発、共用化推進
- 3) 部会活動の活性化
- 4) 支部活動の活性化
- 5) モーターショーの活性化

2. 2009年度主要活動項目

上記の厳しい経営環境の中、当会活動を会員にとって一層有意義なものにしていく必要がある。予算面では会費低減を前提に事業費予算全体を見直す、会員メリットに直結する事業を一層強化、充実させていく反面、資源の有効活用の面から、重点指向でメリハリのある活動内容としていく。

(1) 会員支援活動の充実

- ① 技術面での支援活動
 - ・車体/部品の規格作成
 - ・部品/仕様の標準化推進
 - ・技術面での規制緩和と要望活動
 - ・会員企業の技術レベルアップへの支援

② 中小企業経営に関する支援活動

- ・中小企業支援策税制等の経営支援情報展開と相談窓口の充実
- ・関係諸団体と連携した関係官公庁への法制、税制改革や規制緩和と要請

③ 会員への有用な情報の調査と展開の充実

- ・Webを活用した情報展開充実
- ・車工会事務所の情報発信基地化

④ 会員サービスの向上と会員満足度向上

(2) 環境対応自主取組みの推進

- ① 架装物リサイクルに関する自主取組みの強化
 - ・環境負荷物質の使用削減の促進(環境負荷物質フリー宣言活動)
 - ・リサイクル設計の推進
 - ・環境ラベルの普及促進(ラベルの見直し含む)
- ② 生産活動における環境対応の継続的推進
地球温暖化ガス(CO₂)、VOC削減活動、工場廃棄物最終処分量削減活動
- ③ 環境対応技術支援の充実
(推奨仕様、推奨構造、推奨素材等まとめと会員展開、情報共有化)
- ④ 環境保護への啓発活動の充実
(講演会、研修会、広報活動等)

(3) 安全対応活動の推進

- ① 架装車に最適な車両法規改正提案と決定事項の円滑な対応
- ② コンプライアンス優先経営の徹底
企業倫理徹底の支援、不正な二次架装の根絶の定着
- ③ 各種サービスの拡大と会員満足度向上

(4) 活性化活動の継続推進

- ① 部会活動充実
 - ・部会での調査研究業務の確実な推進
 - ・車体/部品に関する規格作成と部品標準化推進
- ② 支部活動の充実
 - ・支部活動活性化のための本部支援充実
 - ・地域毎の会員カバレッジ率把握と非会員の入会促進
 - ・地域会員の正会員化推進
- ③ 事務局強化
 - ・業務の仕組み見直し(規程/基準/マニュアル類の整備)
 - ・組織、分担の見直し、業務の可視化、事務局員教育の充実

部 会 事 業 計 画

トラック部会

1. 活動方針

厳しい経営環境の中、業務の合理化・原価低減につながる部品の共用化や認証手続きの明確化等を実施する。また、官公庁や関係団体との連携を図り、企業支援とともに安全・品質・技術向上を部会、各委員会で推進する。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 官公庁情報および関係法令の改正等の展開と適切な対応方針の立案
- (2) 関係官公庁からの経営支援の情報展開と支援要望に関する検討
- (3) 部会会員相互の情報交換
- (4) 研修会の実施（自動車関連、異業種を含めた工場見学）

2) 業務委員会

- (1) 生産台数、登録台数の情報収集、展開および分析
- (2) 会員カバー率の向上活動（今年度目標＋2社、カバー率目標59%）

3) 技術委員会

- (1) 部品共用化
作業灯（鳥居取付用）の各社使用実態等の調査を行い、共用化可能性の検討を実施（まとめ3月）
- (2) 認証手続きの明確化
装置型式指定制度活用を推進のため、突入防止装置型式認証取得手順書を作成（まとめ3月）
- (3) 環境対応
・製品の環境フリー宣言の推進（部会上位5社）
・環境基準適合ラベル取得意識調査結果に基づくラベル貼付の推進
- (4) 自主基準の洗い出しと内容の見直し検討

4) PR員委員会

- (1) 2008年度から実施している機関誌「車体NEWS」にトラック部会員の紹介を継続

5) 車輛運搬車分科会

- (1) 車輛運搬車の構造要件改定に伴うJABIA規格化の検討（まとめ1月）
- (2) 需要動向と生産対応状況について意見交換
- (3) 関係団体（（社）日本陸送協会）との交流

バス部会

1. 活動方針

国内向けバスについては長期的にも大幅な市場拡大が見込めず、短期的には非常に厳しい経営環境となることも予測され、従来以上に行政施策に整合したバス車体を効率的に設計・製造する必要がある。そのため、会員各社に加え、（株）日本自動車工業会、（株）日本バス協会等の関連団体と連携を図りながら、法規対応検討、各種基準化や部品の共用化・共同購入を積極的に推進する。

また、事業活動の優先順位と予算との最適バランスを考慮し、効率的な部会運営を図る。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 欧州バス見本市の視察（10月）
- (2) バス車体産業労働組合連絡会とバス部会経営者層との懇談会の実施（12月）

2) 業務委員会

- (1) （株）日本バス協会との連携を強化し、使用者・製造者のそれぞれの課題を整理・共有
- (2) 生産台数情報の共有し、バス市場動向の分析を実施（6月、9月、12月、3月）

3) 技術委員会

- (1) 新法規への対応：新ワンマンバス構造要件対応検討（（株）日本自動車工業会合同検討）
- (2) 安全対策検討：車室内安全対策検討（室内カメラ配置、スタンションポールの最適配置）
- (3) 標準化・基準化の推進：バス車体規格集の改訂、LED照明のJABIA規格化等（～3月）
- (4) 部品共用化の検討：新ワンマンバス構造要件対応で新設する扉の開閉制御部品（10月～）
- (5) 環境対応課題への取り組み：車室内VOC基準達成要件の作成（～3月）

- (6) 規制緩和要望：（社）日本自動車工業会が取り組む軸重規制緩和要望への対応

- (7) 自主基準の見直し：自主基準の棚卸、見直しの実施（～2月）

4) 資材委員会

- (1) バス車体部品のコスト低減と円滑な調達を図るため、車室内外ミラー、車椅子スロープ板について、統一部品の購入を検討（～12月）

特 装 部 会

1. 活動方針

重要度が増している部品の共用化、規格化・標準化の推進や調査研究の推進を図る。また、コンプライアンス徹底のため車両法規に適合した特装車を製作するよう会員支援をするとともに、ユーザーへの特装車の適正使用のPRに取り組む。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 会員事業の活性化を促進するための支援活動
- (2) 部会会員相互の生産台数状況などの情報交換
- (3) 自動車関係団体との情報交換

2) 業務委員会

- (1) 特装車の適正使用の推進

特装車のユーザーに対して、基準適合車を使用することを指導・周知することは基より、本年度は次の事項について、PR活動を徹底する。

- ・ユーザーに対してダンプ車の適正使用を促進するためダンプ車用手動式可動バンパの装着をPR
- ・ユーザーに対して脱着キャリア／コンテナの組合せが基準に適合する使用方法をPR

- (2) 市場動向調査の実施

- ・各社の生産台数報告に基づいた市場状況の分析、把握

3) 技術委員会

- (1) 車両関係法規の対応

- ・車両法規改正への適用緩和等意見反映と円滑な対応
- ・ダンプ車の荷台上昇時警報装置等の技術的

規制項目の洗い出し／見直し

- (2) 規格化・標準化の推進

- ・JABIA規格化（脱着キャリア／コンテナの緊締装置強度基準および強力吸引車のタンクハッチ落下防止装置の2件）（10月）

- (3) 車体部品の共用化検討

- ・部品／装置の共用化（粉粒体運搬車のボールバルブ、圧力計、安全弁およびミキサー車の共用配線）（12月）

- (4) 調査研究の推進

- ・新基準対応の塵芥車みなしバンパの共同開発（2月）

- ・粉粒体運搬車用タンクの積載／経年劣化等の調査（1月）

- (5) 環境対応

- ・タンクローリーの解体実験データから易解体性と適正処理の基準作成（10月）
- ・環境負荷物質フリー宣言の推進（部会上位6社）

4) サービス委員会

- (1) 特装車の適正使用の推進

- ・特装車メンテナンスニュースを作成し適正使用PR活動を展開
- ・車種別の点検整備項目／時期をシリーズで作成

小 型 部 会

1. 活動方針

部会員の連携を密にするとともに、車体工業会全体運営に積極的に協力し車体業界の発展に寄与していく。

- (1) 異業種訪問を中心に会員相互の情報交換の場を拡大する。
- (2) 工場見学会、海外視察等については経営環境を考慮して計画する。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 工場見学会、海外視察の実施

会員企業の工場見学、異業種見学、海外視察等を行い、会員相互の理解、技術交流を図る。

但し、今年度は経営環境を考慮して計画する。

- (2) その他

- ・秘書室連絡会の定例化…車工会全体行事日程の検討等
- ・環境委員会 WG 活動への参画し活動推進、広報委員会等への参画、協力
- ・官公庁や他団体の講演会、展示会等の部会員への積極的案内
- ・必要があれば、広報担当者や教育担当者等の各社連携を検討

2) 技術委員会

- (1) 見学会等部会イベントの計画立案
- (2) 委員相互の交流

3) 経営企画部門委員会

- (1) 経営に関わる動向、環境の共有化が行える環境を維持
- (2) 委員相互の交流

特 種 部 会

1. 活動方針

2009 年度における特種部会は、厳しい経済環境にあるが、業界全体の健全な発展のために安全・環境・コンプライアンスへの課題に取り組んで行く。また、特種車をより使いやすくするために「時代にあわない構造要件の見直し」等の実現に向け、取り組んでいく。

更に特種業界内活動を円滑に実施するため、特種業界全体や官公庁への影響力を強めるため、会員数カバー率向上活動を昨年に引き続き実施する。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 関連法令改正等に伴う適切な対応への支援／検査関係部署との情報交換
- (2) 部会会員相互の情報交換
- (3) 異業種を含めた研修会／工場見学会(2回/年)

2) 業務委員会

- (1) 会員カバー率の向上活動…非会員リストの定期的メンテナンス／定期的勧誘進捗確認
- (2) 倫理規定の徹底…部会固有の対応内容検討／行動規範例を考慮した作成支援
- (3) 販売状況／動向の共有化
- (4) 生産台数情報の共有

3) 技術委員会

- (1) 部品の共用化／共同開発の推進…2枚折り戸の蝶番／ロック等共同開発の検討
- (2) 「特種用途自動車の構造要件」の見直し要望作成(10月)
- (3) 自動車検査法人との情報交換(1回/年)
- (4) 環境対応事業…環境フリー宣言推進への対応／部会内上位3社(12月)

ト レ ー ラ 部 会

1. 活動方針

安全への取組み・品質・技術向上・自主基準作成について、部会および各委員会間で連携を図り推進する。本年度は特に安全装備の普及PRの他、トレーラ輸送の有効性PRを行い需要喚起につなげたい。また、官公庁や関係団体とも連携を図り、規制緩和要望、法規対応検討、各種基準化に向け積極的に推進する。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 関係法令の改正等に伴う適切な対応および適用緩和要望の支援(随時)
- (2) 会員事業の活性化を促進するための支援活動(随時)
- (3) 安全への取組みについて、部会としての対応を合意し、推進を指示(4月、9月、随時)
- (4) 部会会員相互の情報交換(4月)

2) 業務委員会

- (1) トレーラに関するユーザーニーズの情報収集および展開(7月、9月、12月、3月)
- (2) トレーラ安全性のPR活動(～3月)
- (3) トレーラ輸送の有効性のPR活動…環境負荷低減、輸送の効率化等(10月)
- (4) 走行距離表示装置の標準設定(1月)

3) 技術委員会

- (1) 安全性のPRに向けての調査(11月)
 - ・横転抑制装置の調査(機能・試験方法など)
- (2) 安全装置の共同開発に向けての活動(～11月)
 - ・メカサス用の横転抑制装置のメーカーとの共同開発に向け、調査・試験の実施
- (3) 調査研究および試験業務の充実
 - ・突入防止装置の共同研究(1月)
 - ・ISO化に向けたホイールナット締付トルク試験(12月)

- (4) 継続生産品の環境フリー部品への切り替え
 - ・環境負荷物質フリー宣言活動推進(部会上位3社)
 - ・環境負荷物質フリー製品の募集と報告(1月)
- (5) 基準類の作成
 - ・「トレーラの制動装置試験の試験車選定実施要領」作成(12月)

4) サービス委員会

- (1) トレーラの適正使用推進活動
 - ・メーカー純正部品のPRパンフレット発行(1月)
 - ・サービスニュース合本作成(1月)
- (2) 会員相互研鑽のため工場見学会の実施(未定)

5) 車輛運搬用トラクター委員会

- (1) 車輛運搬トラクター型式届出書の自主審査

バ ン 部 会

1. 活動方針

生産台数の減少が続く状況の中で、各社の開発・生産業務の効率化・原価低減につながる業務の標準化に関する活動を展開する。また併せて、環境対応や安全性の向上に関する活動を実施し、部会活動の活性化を目指す。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 官公庁情報、関係法令の改正等に伴う適切な対応および支援
- (2) 部会会員相互の情報交換
- (3) 研修会の実施(自動車関連、異業種を含めた工場見学)

2) 業務委員会

- (1) 生産台数の情報収集・分析および展開
- (2) 会員カバー率の向上活動(今年度目標+2社、カバー率目標97%)

3) 技術委員会

- (1) 標準化の推進
 - ・シャシ側とのワイヤーハーネスの結線方法についての標準化を実施するための設計情報の集約と標準化内容を検討(10月中旬まとめ、3月結果まとめ)

- (2) バン業界の知名度向上につながる広報活動充実化の検討
 - ・冷蔵・冷凍車の環境対応等のPRパンフレット、広告を検討
- (3) 認証手続の明確化
 - ・装置型式指定制度活用を推進するための、突入防止装置型式認証取得手順書を作成(まとめ3月)
- (4) 環境対応
 - ・製品の環境負荷物質フリー宣言の推進(部会上位10社)
 - ・環境基準適合ラベル取得意識調査結果に基づく貼付の推進
- (5) 自主基準の洗い出しと内容の見直し検討
- (6) 関係団体((社)日本冷凍空調工業会)との交流(予定9月)

資 材 部 会

1. 活動方針

「ビジネスネットワーク」活動を基本に、部会員の積極的な参加で分科会・グループ活動を活性化させ、各種共通課題への対応を図り、会員にメリットの大きい、魅力ある活動を推進していく。特に本部の各委員会や各部会と連携し、装置・部品等の共有化、標準化等の推進を図っていく。

2. 部会活動計画

1) 部 会

- (1) 役員・幹事会の開催
- (2) 他部会との交流・活動の推進(本部活動や他部会活動に積極的に参画)
- (3) 部会会員相互の交流と研修のため、部会見学会を開催(11月開催予定)
- (4) 環境・安全問題に係わる情報、関連規格情報を提供や講演会の実施
- (5) 機関誌やホームページを利用した部会活動並びに会員会社のPR活動推進

2) 分科会・グループ(3分科会・13グループ)

- (1) 同業種間の各種情報交換、共有化および課題への対応
- (2) 専門家としての他部会要請への対応と他部会への積極的な働きかけ実施
- (3) 相互研鑽のため会社相互訪問あるいは異業種訪問等の実施(分科会ごとに実施)

雇用調整助成金制度および 中小企業金融対策が更に充実(平成21年度補正予算)

企業経営状況や雇用が一層悪化する中、行政における企業経営支援策が打たれており、「雇用調整助成金制度」および「中小企業金融対策」が更に充実化された。

■雇用調整助成金の拡充・発展について

昨年度、雇用調整助成金に関して何度か変更があり、都度ホームページ等で紹介してきたが3月末に厚生労働省が発表した「雇用調整助成金の拡充・発展」の内容と平成21年度補正予算の内容を紹介する。

- ・「雇用調整助成金制度の拡充」について
…図1（3月末時点）
- ・「残業削減雇用維持奨励金のご案内」について
…図2（3月末時点）

1) 雇用調整助成金（雇用維持充実型）

概要：雇用調整助成金を活用して休業等を実施した際、正規・非正規労働者（派遣労働者を含む）の雇用維持をした場合に助成率を上乗せする。

要件：①生産量／売上高減少（5%以上減／直前又は前年同月比）ただし中小企業の場合は直近の決算等の経常利益が赤字であれば5%未満でも可

②被保険者を解雇等しない（判定基礎期間およびその直前の6カ月）

③被保険者等の数が直前6カ月平均の80%以上、等

助成内容（※印：平成21年度補正予算内容：5月29日）

- ・助成率を現行の4/5から9/10に引き上げ（大企業；1/3から3/4に引き上げ）
- ・大企業の教育訓練給付費を引き上げ現行の1,200円から4,000円に引き上げ（※）
- ・1年間の支給限度日数（200日）の撤廃（※）

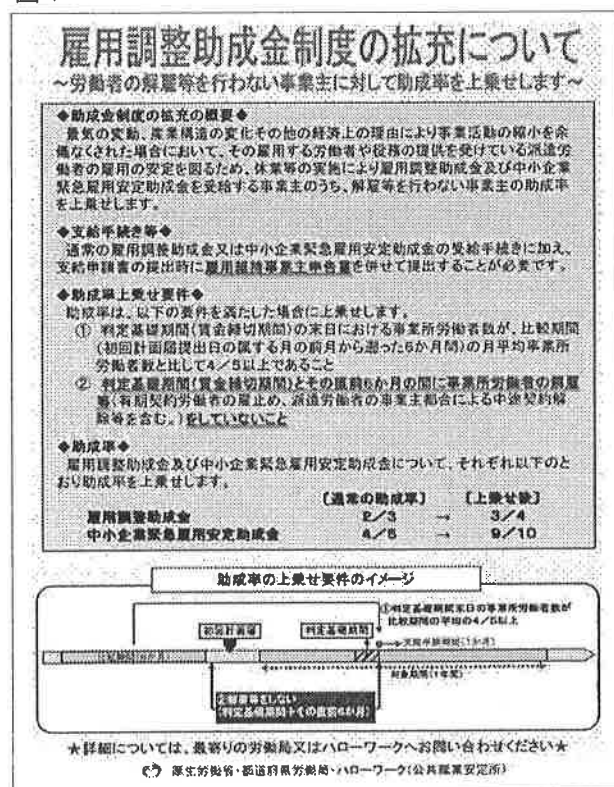
2) 残業削減雇用維持奨励金

概要：残業時間の削減により正規・非正規労働者（派遣労働者を含む）の雇用維持をした場合に助成金を支給する。

要件：上記、雇用調整助成金（雇用維持充実型）の要件①～③同一

- ④残業を大幅削減（直前6カ月平均の1/2以下かつ5時間以上減）
- ⑤残業削減に係る事前計画（協定）を提出

図1



<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/03/dl/h0330-4b.pdf>

図2



<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/03/dl/h0330-4a.pdf>

助成内容

- ・雇用維持有期契約労働者1人年30万円×対象労働者数＋派遣契約維持派遣労働者1人年45万円×対象労働者（上限100人）を6カ月毎に分け支給（大企業は各20万円と30万円）
- ・本助成金の支給後1年間は再度支給を受けられないクーリング期間を設定

■中小企業金融対策について

4月10日に決定された「経済危機対策」において、緊急保証の規模拡大（20兆円→30兆円）、セーフティネット貸付等の規模拡大（10兆円→17兆円）をはじめとした、中小企業金融対策の拡充が盛り込まれ、これを受けて、4月27日、平成21年度補正予算が提出された。主な実施施策は以下のとおり。

1) 4月27日より開始

【緊急保証制度（信用保証協会）】

- ・据置期間の延長
（従来）1年以内 → 2年以内
- ・普通保険を活用した無担保保証の弾力的な対応
（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則



個々の中小企業の実情や実情を踏まえ、信用力が高く、実質的な保全が可能であると各保証協会において判断する場合には、8,000万円を超える無担保保証のニーズに対して、普通保険での無担保保証に柔軟に対応

2) 5月11日より開始

【日本政策金融公庫】

- ・雇用促進資金の拡充
貸付対象者に、雇用調整助成金の届出を行った中小企業を追加する。併せて、運転資金の貸付金利を0.4%引き下げる。
- ・新創業融資制度の拡充
運転資金の貸付期間を5年から7年に延長し、据置期間を6カ月以内から1年以内に延長する。

【信用保証協会】

- ・特定社債保証制度の拡充
対象者の純資産額要件を緩和し、純資産額5,000万円以上1億円未満の中小企業者も利用可能にする。

詳細は以下を参照

- ・中小企業庁報道発表内容

<http://www.chusho.meti.go.jp/kinyu/2009/090427ChushoKinyuTaisaku.htm>

経済対策等に係る雇用調整助成金制度の見直し									
	平成21年度補正予算	1次補正（※1） （12月1日付）	2次補正（※2） （12月1日付）	3次補正（※3） （12月1日付）	4次補正（※4） （12月1日付）	5次補正（※5） （12月1日付）	6次補正（※6） （12月1日付）	7次補正（※7） （12月1日付）	8次補正（※8） （12月1日付）
主たる要件	大企業 中・小企業	大企業 中・小企業	大企業 中・小企業	大企業 中・小企業	大企業 中・小企業	大企業 中・小企業	大企業 中・小企業	大企業 中・小企業	大企業 中・小企業
据置期間	1年以内	1年以内	1年以内	1年以内	1年以内	1年以内	1年以内	1年以内	1年以内
据置期間の延長	（従来）1年以内 → 2年以内	（従来）1年以内 → 2年以内	（従来）1年以内 → 2年以内	（従来）1年以内 → 2年以内	（従来）1年以内 → 2年以内	（従来）1年以内 → 2年以内	（従来）1年以内 → 2年以内	（従来）1年以内 → 2年以内	（従来）1年以内 → 2年以内
普通保険を活用した無担保保証の弾力的な対応	（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則	（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則	（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則	（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則	（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則	（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則	（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則	（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則	（従来）無担保保証は、無担保保証の上限8,000万円までの取扱いとしており、普通保険の2億円に係る保証については、担保による保全を原則

（※1）平成20年12月1日以降の中小企業についての記載は、中小企業緊急雇用安定助成金の内容である。
（※2）クーリング期間・・・従来の雇用調整助成金は、制度利用後1年経過するまでの期間は再度制度利用することができない。
（※3）休業支援・・・休業日数が所定労働日数の一定割合以上とならない場合は助成対象とならない。
（※4）雇用維持・・・被保険者等を解雇せず、かつ雇用を維持する事業主（被保険者等（派遣労働者を含む）の数が直前6か月平均の80%以上）に対し助成率を引き上げる。
（※5）残業削減雇用維持奨励金・・・残業時間の削減により有期契約労働者及び派遣労働者の雇用維持をした場合に、1事業所当たり各100人分を限度に奨励金を支給。
具体的には、①生産高等が減少、②被保険者等を解雇等しない、③被保険者等の数が直前6か月平均の80%以上、④残業時間を大幅に削減（直前6か月平均の1/2以上かつ5時間以上）の4要件を全て満たす必要がある。

中小企業庁作成資料等より

本部だより

■ 2008 年度会員会社の車体生産状況

当会会員会社の主要車種の生産状況を部会別にまとめた。各台数詳細は DATABOX (38 頁) を参照。

(1) トラック

対前年度比 65.8% と大幅な落ち込みとなった。シャシメーカー納入標準荷台の生産台数を除くと対前年度比 62.2% と更に落ち込み幅が拡大。

(2) バン

対前年度比 81.3% であった。好調だった冷凍車 (106.5%) を除くと 73.3% となり、落ち込み幅が大きかった。また昨年度同様、生産台数上位 5 社でバン生産台数の約 70% を生産しており大手寡占状況に変化はない。

(3) 大中型バス

対前年度比 92.7% と若干の落ち込みはあるもの、他車種に比較すると落ち込み幅は少なかった。大中型バスは事業者向けが中心で、年度予算計画での生産量が確保できた。

(4) 特装車

対前年度比 76.3% と大幅に落ち込んだ。その中で自治体需要が主体の消防車と環境衛生車については、需要変動が少なかった。また、輸出比率が直近の 3 年間で 11.9% → 17.7% → 20.4% と増加している。

(5) 特種車

輸出の人員輸送車 (サービス用) が一時的に増加したため、対前年比 101.8% と堅調であったが、これ除くと 97.6%。車椅子移動車 (保健用) は 112.7% と好調だった。

(6) トレーラ

対前年比 106.4% と堅調。使用期限切れとなった 2 軸 20 フィートコンテナ用軸重規制緩和トレーラの代替特需 (対前年度比 160.7%) の影響が大きい、年度末にはこの特需も収束した。

■ 中央技術委員会を開催

中央技術委員会 (委員長・田中勝志・極東開発工業㈱取締役会長) では、3 月 5 日に当会会議室において 20 名が出席し、第 4 回委員会を開催した。委員会に先立ち、国土交通省担当官を講師に招いて「リコール制度説明会」を実施した。

1. リコール制度説明会

同省リコール対策室中村課長補佐からリコール制度の主旨、経緯、最近の届出状況に関する説明に引き続き、同室山口係長からリコール届出、改善対策、サービスキャンペーンの具体的手続きについて説明があった。

2. 中央技術委員会

1) 2008 年度中央技術委員会の事業計画について

(1) 法規関係の対応

・ECE 規則 R10

・大型貨物車ナンバープレート取り付け基準案

(2) 基準化/標準化推進

(3) 部会調査研究の横断的推進

2) 2009 年度事業計画案の策定

次年度事業計画の強化、充実項目は次のとおり

・技術的規制項目の洗い出し/見直し検討

・基準化/標準化の積極的な推進

・部品/装置/仕様の共通化、共同購入

■ 「自動車の事故・火災情報報告制度」の勉強会を開催

中央技術委員会・リコール検討会 WG (委員・竹下敏保・日本トレックス㈱) では、3 月 25 日にくるまプラザ会議室において 63 名が出席し、勉強会を開催した。本勉強会は、「道路運送車両の構造・装置に起因する事故・火災情報等の報告について (2009 年 1 月 23 日発行: 国土交通省通達)」が発出されたことに伴い、当会会員に対して同通達の運用方法について周知徹底することを目的として実施した。

講師: 竹下敏保委員・日本トレックス㈱

川本 学委員・日本フルハーフ㈱

木村和史委員・東急車輛製造㈱

要旨は次のとおり

(1) 全自動車メーカー等が国交省に報告する必要のある不具合情報

①自動車メーカーがユーザー等から収集した安全に係るもの

②車両火災、交通事故に係るもの

③リコール届出の改善措置を行った車両に係るもの

(2) 報告対象者の追加

全自動車メーカー等 (当会会員追加) と全輸入事業者 (現行は自動車メーカーと一部の輸入事業者)

(3) 適用時期

2009 年 4 月以降に会員会社が情報入手した事案を国土交通省リコール対策室に報告

■ 中央業務委員会を開催

中央業務委員会 (委員長・比企能信・日本フルハーフ㈱取締役社長) では、3 月 3 日、第 4 回委員会を開催した。法制・税制対応分科会/不正改造根絶分科会/会員拡大分科会から 2008 年度事業計画に沿って年度のまとめを委員長へ報告、次年度の課題/計画等の論議を行った。主な内容は以下のとおり。

1) 2008 年度事業計画

・「雇用調整助成金制度について」説明会を企画
・売上高での 2008 年度のカバー率を算出した結果、正会員 (小型以外) で 95.7% と車体業界のほとんどをカバーできていることを確認

2) 2009 年度事業計画案

・厳しい経営環境が続いている中、昨年同様に中小企業経営に関する支援策等の検討と支援情報の展開の充実を第一優先で行う。

・不正改造根絶分科会は「コンプライアンス優先経営の徹底活動」を狙いとし、コンプライアンス分科会と名称を新たに実施する。

・次年度以降の未加入会社の勧誘等は各部会で確実にフォローしていくことを決め、2008 年度末で会員拡大分科会を終了する。

■ 雇用調整助成金説明会を開催

中央業務委員会法制・税制対応分科会 (分科会長・田村 元・㈱浜名ワークス代表取締役社長) では、3 月 12 日、厚生労働省職業安定局雇用開発課本間研一課長補佐を講師に迎え、「2009 年雇用調整助成金説明会」を開催した。

雇用調整助成金制度の説明から始まり、最新の変更内容、教育訓練費支給の前提となる教育内容、また「平成 20 年度経済対策等に係る雇用調整助成金制度の見直し」等を詳細に説明いただいた。質疑応答も積極的に行われ、参加した会員から非常に参考になった説明会であった、との意見が寄せられた。

■ 環境委員会を開催

3 月 2 日、委員会 (委員長・高木 茂・日産車体㈱取締役社長) では工場環境分科会と架装物リサイクル分科会の次年度の活動の方向付けの審議を実施した。

1. 工場環境分科会

・VOC 排出量実態調査を 2 カ月前出し、不況により水性塗料化が先送りとなることから、調査を 5 ~ 6 月に行った。VOC 削減目標の達成への影響を早期に把握しタイミングの良い対応を実施

2. 架装物リサイクル分科会

・環境負荷物質フリー宣言活動の推進
継続生産の架装物における環境負荷物質の使用削減への取組みを推進し、ポスト新長期でのシャーシ側の新型車切り替えに対応する。



■ 第 200・201 回理事会を開催

第 200 回理事会を 3 月 12 日、第 201 回理事会を 4 月 16 日、当会会議室で開催した。

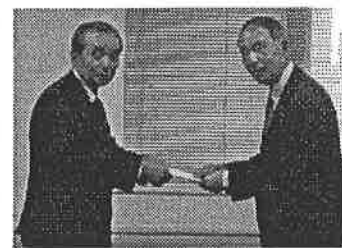
第 200 回理事会では「理事の補充選任に関する件」、「2009 年度事業計画に関する件」の他、2008 年度事業計画実績まとめ、2008 年国内商用車販売状況と会員生産台数について等を資料により説明し、了解を得た。

第 201 回理事会では「理事の補充選任に関する件」、「評議員の変更に関する件」の他、2009 年度本部委員会メンバー体制、2009 年度部会役員・委員会体制について、通常総会での表彰者について等を資料により説明し、了解を得た。(詳細議題については 24 頁車体工業会活動報告・第 200 / 201 回理事会参照)

■ 評議員会および相談役会を開催

5 月 8 日、当会会議室で 2009 年度評議員会を開催した。評議員会では矢島廣一氏 (埼玉自動車工業㈱取締役社長) が議長に選任され、諮問された「2009 年度の車体工業会運営方針は適切である。」との答申を久保地会長に提出し、閉会した。

なお、評議員会に先立ち、同日相談役会を開催し、添田、岩崎、内山各相談役から「2009 年度の運営方針」について意見をいただいた。



■ 支部連絡会を開催

支部連絡会 (議長・比企能信・日本フルハーフ㈱取締役社長) では、3 月 17 日、当会会議室において 15 名が出席し第 4 回支部連絡会を開催した。

主な議題は次のとおり。

1. 支部活動の充実化

・各支部から支部総会、役員会、不正改造車排除運動、研修会、会員加入状況等について、1 年間の活動報告

・2009 年度における各支部総会の日程調整

2. 支部~本部の連携強化

2009 年度以降の事業運営について次のとおり決定

・本部からの支部助成金を 15% 減額措置
・支部会費の減額措置を依頼したところ、4 支部で実施

・支部/本部会計の事業費の一体化

・会議運営は、「本部主導型」から「支部主導型」とし、議長および副議長は支部長から互選

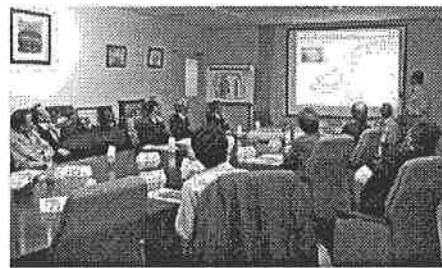
また、会議内容は課題の論議、意思決定を主体とし日常の情報は都度メール展開

部会だより

■2009年度部会総会を各地で開催

2009年度の部会総括会議（部会総会）が全て終了し、2008年度活動実績報告および決算報告、2009年度活動計画、予算案の承認を得るとともに部会長をはじめ、新年度役員が選任された。

部会	開催日/場所
トラック部会	4月9日(木) 鹿児島
バス部会	4月7日(火) 石川
特装部会	4月13日(月) 東京
小型部会	4月16日(木) 東京
特種部会	4月16日(木) 東京
トレーラ部会	4月7日(火) 東京
バン部会	4月17日(金) 静岡
資材部会	5月13日(木) 東京



バス部会

特装部会



バス部会

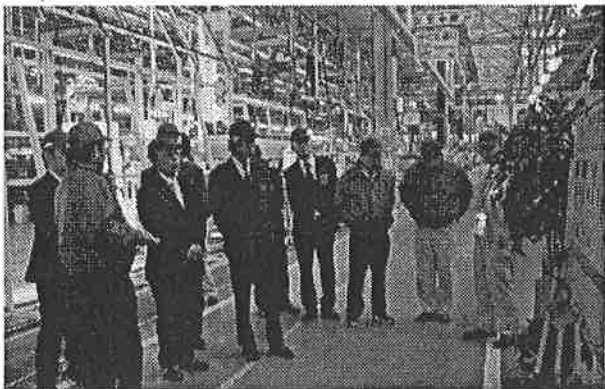
■ジェイ・バス㈱小松事業所工場見学会を開催

バス部会（部会長・柴田 計・ジェイ・バス㈱取締役副社長）では4月7日に開催した2009年度部会総会に併せ、ジェイ・バス㈱小松事業所を訪問し、大型バス生産ラインの見学を行った。

ジェイ・バス㈱小松事業所は大型バス生産工場としては最新鋭の設備を持った工場で、いすゞ自動車㈱と日野自動車㈱向けの大型観光バスを主体に生産している。

見学会では部品在庫を徹底的に削減する仕組み作りや品質は工程ごとに確実に造り込む体制の徹底といった組織面での強化、活発に行われている現場の自主改善活動等、品質向上や原価低減に積極的に取り組まれている状況について説明をしていただいた。

参加された会員からは、「毎回訪問する度に進化している工場である」との感想もあり、非常に好評な見学会であった。



特装部会

■技術委員会を開催

技術委員会（委員長・平田信一・新明和工業㈱特装事業部品質保証部長）では、5月14日に当会議室において8人が出席し委員会を開催した。主な議題は次のとおり。

1. 委員会の役員変更
 - ・委員長の交代および副委員長の選出
2. 2009年度特装部会事業計画の確実な実施
 - 委員長から本委員会の事業計画の主旨説明に引き続き、各分科会主査から事業内容の推進日程、アウトプットの活用方法および事業費の四半期毎の支払い計画について具体的な説明があった。
3. 関係情報交換
 - ・最近の車両法規改正項目に関する適用時期説明
 - ・ポスト新長期排ガス適合車の製作情報展開

トレーラ部会

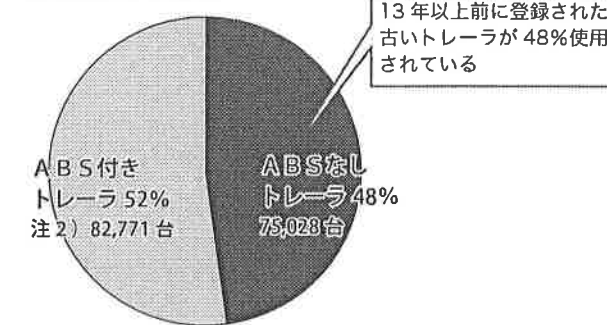
■業務委員会を開催

4月22日、トレーラ部会（部会長・西川柳一郎・日本トレックス㈱社長）では業務委員会を開催し、昨年末から始まった新車登録台数の急落への対応を審議。

トレーラ保有台数の48%は13年以上前に登録された古いトレーラで、新車への更新が止まっており、トレーラの開発・生産技術の継承にも支障が懸念されることから、各方面への積極的な働きかけを行い、

トレーラの新車更新に繋がる活動を推進することとした。

トレーラ保有台数^{注1)} 157,799 台に占めるABS有無



注1) 2009年1月現在のトレーラ保有台数（自動車検査登録情報協会データより）
注2) 1995年9月1日から2009年3月31日の間に登録されたトレーラの台数

■「トレーラサービスマニュアル」発行

トレーラ部会サービス委員会（委員長・曾我 淳規・日本フルハーフ・サービス部長）では、「トレーラサービスマニュアル」を発行し、4月からトレーラ部会員より使用者、サービス工場に配布説明を行っている。

また、㈱日本自動車整備振興会連合会に広報のご協力をいただいている他、当会ホームページから閲覧できるので、ご活用いただきたい。



バン部会

■「冷凍機付き自動車取扱いの手引き」を発行

バン部会（部会長・川本 豊・日本フルハーフ㈱取締役）では、「冷凍機付き自動車取扱いの手引き」を3月末日に発行した。

冷凍機付バン車両の正しい使い方と適切な管理の要点をまとめた内容で、㈱日本冷凍空調工業会輸送用冷凍ユニット技術専門委員会にご協力いただいた。当会ホームページに掲載したので、ご活用いただきたい。



■㈱北村製作所新潟本社工場見学会実施

バン部会（部会長・川本 豊・日本フルハーフ㈱取締役）、トラック部会（部会長・堀尾浩二・不二自動車工業㈱取締役社長）では、合同による見学会を3月6日に実施した。

見学先の㈱北村製作所新潟本社工場では、リフトカー、ボトルカー、冷凍車、ドライバン等の製作ラインを見学、コンテナ作りのノウハウで設計開発、設置施工、メンテナンスなど一貫して請け負っているシステムの説明を聞くなど有意義な見学会となった。



資材部会

資材部会講演会を開催

資材部会（部会長・杉本 眞・レシップ㈱取締役社長）では5月13日、部会総会後、「危機的状況に突入した自動車業界」と題して講演会を開催し、他部会員を含めて約90名が出席した。

講師は日興シティグループ証券㈱マネジングディレクター 松島憲之氏で、自動車業界の最新動向について、国内市場からグローバル市場まで、また乗用車から商用車に至るまで大変幅広く分析し、今後の自動車業界の進むべき方向性を示唆いただいた。

特に2009年度の商用車市場動向の解説は、今までの予測を超えた台数予測であり聴講者に大きなインパクトを与えた内容であった。



支部だより

2009 年度 全国支部通常総会開催状況

支部名	月日	会場	支部長(所属事業所・役職)	来賓	車体工業会
北海道	4月24日	札幌第一ホテル	原 忠彦 北海道車体(株) 社長	(経)佐藤製造産業課長 (国)越湖技術安全部技術課長	橋本専務理事
東北	4月21日	メトロポリタン山形	磯野 栄治 (株)いそのポデー 社長	(国)多田技術安全部長、千田技術課長	久保地会長 橋本専務理事
新潟	4月24日	万代 シルバーホテル	北村 泰作 (株)北村製作所 社長	(国)松田技術安全部長、佐々木技術課長 山本専門官、宇佐見首席専門官	山崎支部連議長 今井技術部長
関東	4月23日	浜松町・東京會館	荒井 直人 富士重工業(株) 執行役員	(国)西田技術安全部長、鈴木技術課長	久保地会長 橋本専務理事
中部	5月15日	名古屋・通信会館	山崎 茂雄 (株)東海特装車 社長	(経)田島産業部製造産業課長 (国)尾崎自動車技術安全部技術課長	高木副会長 花石事務局次長
近畿	5月15日	京都 センチュリーホテル	堀口 昇一 須河車体(株) 会長	(経)中川製造産業課長補佐 (国)山岸技術安全部長、福居技術課長、 楠原保安・環境専門官 桐原京都支局長、人見(独)京都所長	比企副会長 橋本専務理事
中国	5月11日	ホテル広島 ガーデンパレス	大上 力夫 (株)大上自動車工業 社長	(経)尾本地域経済課長 (国)江坂技術安全部長、宗森技術課長	田中副会長 香村事務局次長
四国	5月13日	リーガホテルゼスト 高松	久保 哲也 (株)タダノ 執行役員	(経)堀口地域経済部長、岡製造産業課長 (国)大野技術安全部長、芳野技術課長	比企副会長
九州	5月14日	福岡・八仙閣	矢野 羊祐 (株)矢野特殊自動車 会長	(経)石丸地域経済部地域経済課長補佐 (国)山村技術安全部長、清田技術課長 河合福岡支局長、脇首席専門官、福田(独)九州検査部長	田中副会長 瓜谷事務局次長

(注)(経):経済産業省、(国)国土交通省、(独)自動車検査独立行政法人を示す

支部総会開催風景



北海道支部



東北支部



新潟支部



関東支部



中部支部



近畿支部



中国支部



四国支部



九州支部

中部支部

■役員会を開催

中部支部(支部長・山崎茂雄・(株)東海特装車取締役社長)では、4月15日に名古屋通信会館にて第34回役員会を開催した。2008年度の行事および収支決算報告、2009年度の事業計画・収支予算案及び、任期途中での役員交替(3名)、事務局員定年による交替の件について提案を行い承認を得た。

近畿支部

■講演会を開催

近畿支部(支部長・堀口昇一・須河車体(株)・取締役会長)は、5月15日京都センチュリーホテルで行われた第18回通常総会の中で講演会を開催した。

講師に近畿運輸局自動車技術安全部保安・環境課専門官楠原勇二氏を招き、「自動車の排気ガス規制について」と題し講演いただいた。

官公庁だより

■環境対応車の普及促進について

—経済産業省・国土交通省

環境対応車の普及促進として以下環境性能の良い新車の購入促進策により、環境対応と景気対策を効果的に実現する。(平成21年度補正予算)

2009年4月10日に遡及適用

(1) 経年車の廃車を伴う新車購入補助

車齢の古い車を廃車し、一定の環境性能を有する新車を購入する者に対して補助を行う。

〈乗用車〉(登録車・軽)

要件	登録車	軽自動車
車齢13年超車から 2010年度燃費基準達成車へ	25万円	12.5万円

〈重量車〉(トラック・バス等)

要件	小型 (GVW3.5tクラス)	中型 (GVW6tクラス)	大型 (GVW12tクラス)
車齢13年超車から 新長期規制適合車へ	40万円	80万円	180万円

(2) 新車購入補助(経年車の廃車を伴わないもの)

環境性能の良い新車を購入する者に対する補助

〈乗用車〉(登録車・軽)

要件	登録車	軽自動車
排出ガス性能4☆かつ 2010年度燃費基準+15%以上	10万円	5万円

〈重量車〉(トラック・バス等)

要件	小型 (GVW3.5tクラス)	中型 (GVW6tクラス)	大型 (GVW12tクラス)
2015年度燃費基準達成車かつ NOxまたはPM+10%低減	20万円	40万円	90万円

■トラック関係事業の効率化・高度化

—国土交通省自動車交通局

国土交通省は厳しい経営環境に直面しているトラック運送事業者に、下記支援を実施。

(1) 中小トラック事業者構造改善支援事業の拡充

(平成20年度2次補正予算:150億円)保有車両数要件の上限(30両以下)を撤廃し、補助対象となるトラック事業者を「中小企業」(*)に拡大する等の要件緩和を行う。
※資本金3億円以下または従業員数300人以下

(2) 荷主等とのパートナーシップによる構造改善

実証実験事業(平成20年度1次補正予算:50億円)予算額 5.1億円

(3) 国際海上コンテナ陸上輸送高度化支援事業

(平成21年度補正予算:2.6億円)

国際海上コンテナの大型化等に対応したコンテナシャーシの導入を行う事業者に対し、買換え費用の一部を補助。

・20フィート・40フィートコンテナ兼用シャーシへの買換え費用分75万円

廃車費用分10万円

■「不正改造車を排除する運動」を実施

—国土交通省

国土交通省および自動車関係33団体で構成する「不正改造防止推進協議会」が中心となって、内閣府、警察庁、農林水産省、経済産業省、および環境省の後援ならびに自動車検査独立行政法人、怪門自動車検査協会の協力のもとに本運動を実施する。

【実施期間】

「不正改造車を排除する運動」は、年間を通じた運動とするが、2009年6月1日から6月30日までの1カ月間を「不正改造車排除強化月間」とし、特に重点をおいて運動を実施する。

【当会の対応】

当会としては、以下の資料を各支部経由で会員に配布、各資料を使用し、実施要領に沿って運動を実施する。

- ・「不正改造車排除運動」実施兼事例ポスター
- ・チラシ

■「保安基準細目告示の一部改正」について

—国土交通省

国土交通省は、3月24日付けで「保安基準細目告示の一部改正」を行い緊急自動車の種類を追加した。全文は平成21年3月24日官報に掲載。主な内容は次のとおり。

1. 緊急自動車の追加

「緊急自動車のうち重度の傷病者でその居宅において療養しているものについて、いつでも必要な往診をすることができる体制を確保している医療機関が当該傷病者について必要な緊急の往診を行う医師を当該傷病者の居宅まで輸送するために使用する自動車」を追加した。

〈警光灯およびサイレンは備える必要があるが、車の色は白色に限定しない。〉

2. 適用時期 2009年4月1日



■「審査事務規程」の一部改正について

—自動車検査法人

自動車検査法人は、審査事務規程の第49次改正を行い、消音器の加速走行騒音防止、尿素選択還元型触媒システムの機能維持および在宅傷病者緊急往診用自動車の車体の塗色に関する規定を追加した。

1. 主な改正内容

(1) 消音器に関する騒音対策

①加速走行騒音の防止に関する規定を追加

②騒音低減機構の除去防止に関する規定を追加

(2) 尿素選択還元型触媒システムの機能維持の規定を追加

(3) 在宅傷病者緊急往診用自動車の車体の塗色に関する除外規定を追加

2. 施行時期

2009年4月1日

(改正等内容の全文は、自動車検査法人のホームページ <http://www.navi.go.jp/> を参照)

国土交通省地方運輸局

2009年5月13日現在

局別	運輸局長	自動車技術安全部長	技術課長	整備課長 ・整備・保安課長	保安・環境課長 ・保安・環境課長	管理課長 ・管理課長
北海道	尾澤 克之	成瀬 隆一	越前 直美	・飯坂 清巳	・難波 次朗	片倉 康治
東北	木場 宣行	多田 雅司	千田 等一	・高橋 和裕	・曳地 信廣	庄子 政美
北陸信越	後藤 靖子	松田 好博	佐々木義弘	・今井 淳	・滝澤 澄世	平栗 知雄
関東	堀本 秀爾	西田 寛	鈴木 守	志村 泰夫	飯倉 一寿	伊藤 秀男
中部	中田 徹	浅野 忠信	尾崎 正俊	鷲津 宗臣	諸戸 行雄	水野 芳正
近畿	各務 正人	山岸 重雄	堀居善一郎	森本 武彦	徳田 悦生	森田 兼二
中国	石津 緒	江坂 行弘	宗森 研造	・村田 修	・藤谷 公夫	新宅 博文
四国	宮村 弘明	大野 幹雄	芳野 徳三	・松岡 重幸	・原 優	・坪内 良雄
九州	堀本 啓二	山村 澄雄	重松 哲郎	保利 昌宏	脇 紀昭	江頭 国之
沖縄	—	運輸部長 大野 秀敏	車両安全課長 新里 勝	—	—	—

経済産業省地方経済産業局

2009年5月25日現在

部局	経済産業局別	当会の相談窓口	部長名	課長名
産業部	関東	製造産業課	曙岡 秀行	田中 和茂
	中部	製造産業課	阿部 聡	田島 雅敏
	近畿	製造産業課	波留 静哉	山本 陽一
地域経済部	北海道	製造産業課	牧内 勝哉	佐藤 範
	東北	産業支援課	野田 耕一	竹田 廣一郎
	中国	地域経済課	湯浅 憲義	尾本 哲朗
	四国	製造産業課	堀口 光	岡 弘昌
	九州	製造産業課	笹岡賢二郎	山田 真治

会 員 情 報

■高木会長 藍綬褒章を受章

4月29日付けで、日産車体(株)取締役社長、高木 茂 氏(旧)日本自動車車体工業会・会長(受章時は、副会長))は、長年にわたる企業ならびに自動車産業の発展に貢献された功績によって、藍綬褒章を受章され、5月19日、経済産業省より伝達された。

主な功績としては、

(1) 日産車体(株)取締役社長としての功績

- ・多品種変量生産の対応力強化、品質向上、新工場建設など、企業体質の一層の競争力強化
- ・経営の信頼性向上
- ・地球規模の環境保全活動への取り組み

(2) 車体工業会役員として果たした業績

などが上げられる。心よりお慶び申し上げます。



■社名変更

・正会員

佐川ギャラクシーモータース(株)→SGモータース(株)
(2009年3月21日より)

金剛デベロッパ(株)→デベロッパメイド(株)
(2009年5月12日より)

■入 会

・正会員

(株)ソーシン (トレーラ部会 4月16日付)

代表者 代表取締役 森 道明

〒358-0045 埼玉県入間市寺竹 1115-1

TEL: 04-2936-3161 FAX: 04-2936-3164

主要製品: 1軸2輪フルトレーラ、2軸4輪フルトレーラ、空港用化学消防車シャシ、電子機器搭載川大型トラック車両架装

(株)トーヨートレーラー (トレーラ部会 4月16日付)

代表者 代表取締役 檜垣 和幸

〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原 1-4-2

TEL: 06-6392-8201 FAX: 06-6392-8501

主要製品: 重量セミトレーラ、ポールトレーラ、ヤードキャリア、タンクセミトレーラ

■退 会

・正会員

(株)寺尾自動車工業 トラック部会 3月31日付

(株)ミカワ関東 トラック部会 3月31日付

葵車体(株) トラック部会 3月31日付

■移 転

・正会員

本所自動車工業(株)

〒326-0003 栃木県足利市名草下町 1-2-3

TEL 0284-40-2620

FAX 0284-40-2621

車体工業会活動報告

第200回理事会議事録

1. 日 時 2009年3月12日(木)

2. 場 所 当会会議室

3. 審議事項

第1号議案 理事の補充選任に関する件

第2号議案 2009年度(第40期)事業計画(案)に関する件

第3号議案 2008年度収支報告(4/4期実績見込み)(案)

第4号議案 2009年度収支予算(案)

報告事項

1) 2008年度事業計画実績まとめ

2) 2008年国内商用車販売状況と会員生産台数について

3) 経済省、中小企業庁関係情報

4) 重大事故や火災情報の国交省への報告の件

5) その他報告事項

第201回理事会議事録

1. 日 時 2009年4月16日(木)

2. 場 所 当会会議室

3. 審議事項

第1号議案 理事の補充選任に関する件

第2号議案 新入会員に関する件

第3号議案 評議員の変更に関する件

第4号議案 2008年度事業報告まとめ

第5号議案 2008年度収支決算報告

第6号議案 2009年度事業計画(案)

報告事項

1) 2009年度本部委員会メンバー体制・部会役員・委員会体制について(案)

2) 通常総会での表彰者について

3) 2008年度国内商用車販売状況と会員生産台数について

4) 2009年度装置・部品等の共通化および基準・標準化の推進について

5) トレーラ横転抑制装置の普及活動

6) 2009年3月末雇用調整助成金の拡充・発展について

7) その他報告事項

月度活動状況

◆3月◆

2日	バス部会・資材委員会	当会
	環境委員会	〃
3日	バス部会・車体規格会議	〃
	中央業務委員会	〃
5日	中央技術委員会	〃
6日	トレーラ部会・各委員会役員会	〃
6日~7日	バン・トラック部会合同研修会	新潟
10日	トレーラ部会・技術委員会	当会
12日	常任委員会	〃
	第200回理事会	〃
	雇用助成金説明会	東京
	トラック部会・PR委員会	当会
13日	中央技術委員会・テールゲートリフタ技術分科会	〃
	バス部会・業務委員会	〃
16日	バス部会・塗装デザイン研究会	〃
	特装部会・サービス委員会	〃
17日	支部連絡会	〃

18日	バス部会・ワンマン機器小委員会	当会
	トレーラ部会・サービス委員会	〃
19日	トラック部会・車輛迎搬車分科会	〃
	関東支部役員会	東京
24日	特装部会・清掃車小委員会	当会
25日	国際人事分科会	〃
	中央技術委員会・自動車の事故、火災情報制度の勉強会	〃
27日	モーターショー企画委員会	〃

◆4月◆

7日	トレーラ部会総会	当会
	バス部会総会	石川
9日	トラック部会総会	鹿児島
13日	特装部会総会	東京
14日	トレーラ部会・技術委員会	当会
15日	バス部会・ワンマン機器小委員会	〃
16日	常任委員会	〃
	第201回理事会	〃
	特種部会総会	〃
	小型部会総会	東京
17日	トレーラ部会・サービス委員会	静岡
	バン部会総会	当会
21日	特装部会・サービス委員会	山形
	東北支部総会	当会
22日	特装部会・じん芥車技術委員会	〃
	トレーラ部会・業務委員会	〃
23日	バス部会・技術委員会	〃
	資材部会・幹事会	〃
	関東支部総会	東京
24日	バス部会・資材委員会	当会
	北海道支部総会	札幌
	新潟支部総会	新潟
30日	トラック部会・役員会	当会
	トラック部会・PR委員会	〃

◆5月◆

8日	相談役会	当会
	評議員会	〃
11日	中国支部総会	広島
12日	トレーラ部会・技術委員会	当会
	環境委員会・工場環境分科会	〃
13日	資材部会総会	東京
	四国支部総会	高松
	バス部会技術委員会	茨城
14日	特装部会・技術委員会	当会
	九州支部総会	福岡
15日	トラック部会・技術委員会	当会
	中部支部総会	名古屋
	近畿支部総会	京都
18日	バン部会・技術委員会	当会
20日	環境委員会・架装物リサイクル分科会	〃
21日	バス部会・ワンマン機器小委員会	〃
22日	第39回通常総会	東京
26日	特装部会・サービス委員会	当会
27日	トレーラ部会・サービス委員会	〃
29日	広報委員会	〃

近畿支部

会員相互の連携を重要視し、
団結して課題に取り組む

1. 支部概要

当支部は、1991年に近畿支部として組織化されましたが、当時、近畿車体協会という同様の組織があり、活動も活発でした。その後、関係者と協議して2002年12月正式に近畿車体協会と一体化し現在に至っています。

近畿は大阪・神戸・京都等の商業圏と奈良・和歌山等の農村圏が共存した地域です。

総会員数は44社で正会員8社、地域①会員の17社、地域②会員10社、準会員9社となっています。団結力を最優先課題とし日々コミュニケーションを大切に活動をしています。

(1) 支部役員体制

支部長	堀口昇一	須河車体㈱取締役会長
副支部長	林 篤昌	極東開発工業㈱近畿営業部部长
〃	森本邦夫	㈱モリタ執行役員
監 事	柳井 深	日本フルハーフ㈱大阪支店長
〃	大野玄二	日通商事㈱大阪支店工場長代理

(支部長・副支部長を含み13名体制)

(2) 会議体制

支部会議として通常総会の他、役員会を年2回開催。役員会においては、年度行事の細部調整や昨今業界における環境対応や中小企業支援施策などの諸問題を議題にし協議しています。

2. 活動内容

近年、日々変動する業界状況下において会員相互の連携を重要視し現在・将来に起こる諸問題に打ち勝てる組織活動を行っています。

そのためには、支部活動内容が会員に対し有益かつ充実化を原則と考え進めております。支部活動の

具体的な内容は、本部事業計画と連動しながら下記のように取り組み推進しました。

①環境対応の拡大支援

環境基準適合ラベルの普及に対する意見交換(部会等)

②安全対応活動の推進支援

不正改造根絶活動(販売店協会等連携)講習を受講

③本部、関連部署からの情報収集(官公庁からの通達等)と会員への展開

本部および官公庁からの通達等を随時会員へ連絡(メール・郵送等)
直近の情報では雇用調整助成金に関する情報に対し情報入手後直ちに会員各位に伝達。また、本部から配布される車体NEWSをはじめ交通安全関連や環境に関する資料を速やかに伝えている。

④研修会・講習会

1) 研修会

会員の知見を高める為工場見学を実施(一泊二日)九州地方 ㈱喜多村製作所・㈱矢野特殊自動車の2社見学

2) 研修会(室内)

演題「第1部 経済環境」「第2部 GEの経営」GEフィナンシャルサービス㈱の方に講義いただいた。

3) 部会

各部会では昨今会員が取り組んでいる課題や厳しい経済環境を打破するため情報交換を行っている。

部会・支部紹介 / 支部長インタビュー

近畿部会

堀口 昇一 支部長に聞く

(須河車体㈱ 取締役会長)

環境問題と経営支援の 取り組みを主軸に置いて

●近畿支部の現状と主な活動内容について教えてください。

私は、前支部長須河健市の亡き後を受け2004年に支部活動経験無きままに急遽支部長に就任致しました。それまで架装メーカーの社長でありながら、入社以来管理畑を歩んできた関係で、業界の事情やトラックの技術的な事等が全然わかっていなかったので固辞していたのですが、最終的に当時の小島会長が直々に京都まで向いて来られ、「ぜひ支部長を受けてほしい」と説得され就任いたしました。

諸活動を推進するに当たり、まず事務局体制の見直しを行いました。当時専任の事務局員がいましたが会費収入の半分がその人件費に費やされるという状況で支部活動に支障をきたしており、事務局員を業界事情に詳しい当社社員の兼務とし、少し財政的に余裕が生まれました。

次に、役員体制の見直しを行いました。支部活動を活性化するためには地域会員①の協力が必要と判断し、地域会員①の役員を2名に増員した結果、支部活動の活性化に繋がったと思います。

業務内容の改善では、電子メールを活用し情報を速やかに各会員に提供できるようにし、また、経費削減のため専用FAX機を廃止、幹事会社の設備を借用することとし、捻出した費用は、会員相互の各部会、研修会・講習会等の充実に活用しました。

また100年に一度の大不況と言われている中、今年度から全会員を対象とし支部会費の減額も行いました。

不正な二次架装根絶活動の成果もあり、業界における不正を絶ち車体工業会の地位を確立し責任を持てる業界団体になったことは、本部の指導をはじめ近畿支



部会員の方の揺るがない気持ちと努力であると思い、感謝しております。

●近畿支部の主要課題と取り組みについてお聞かせください。

今後は、車体工業会としてまた、業界の責任として取り組む重要項目は環境対応であると思います。架装物リサイクルに関する自主取り組みをはじめ、地球温暖化ガス(CO₂)削減活動や3R(リデュース・リユース・リサイクル)を考慮した設計・製造等、問題は山積しております。正会員を主体に地域会員の協力体制の下、また本部の関連委員会とも協力を賜り進めてまいりたいと思います。

また、未曾有の景気後退期に当たり、業界事情のみならず経営支援のための諸情報の伝達も行っていきたいと思っています。

Profile

◆業務歴

1979年4月 須河車体㈱ 入社
1988年2月 取締役 就任
1997年2月 代表取締役社長 就任
2009年3月 取締役会長 就任

◆車工会歴

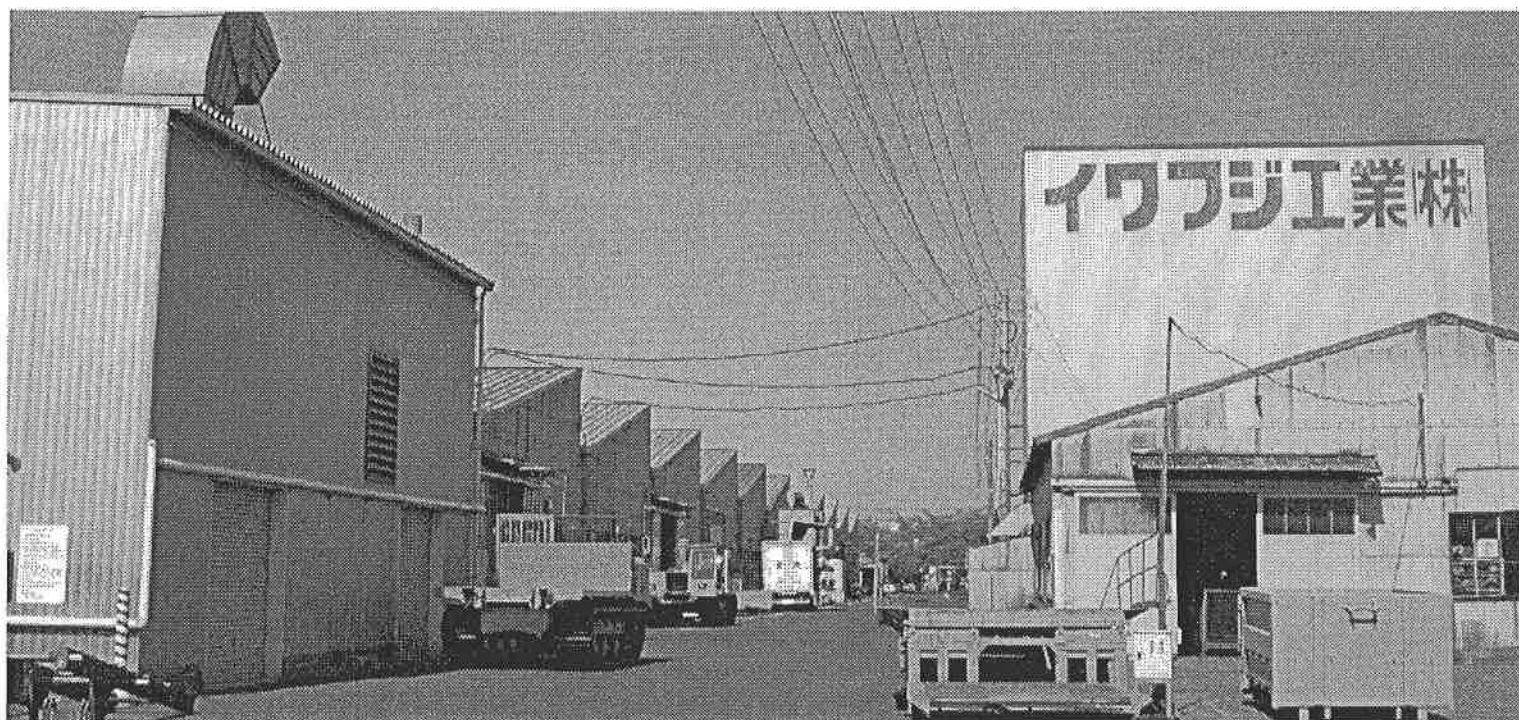
2004年1月 近畿支部支部長 就任
〃 車体工業会理事 就任

◆趣味・嗜好

ゴルフ、旅行、散歩

◆人物寸評

人に優しく自分に厳しくをモットーにされており、人の和を大切にされる性格です。特に人の話を良く聞き、的確な判断で行動された成果により現在の須河車体があると思います。今年の3月に会長に就任され社業同様、さまざまな分野に対し、活気盛んに繰り広げられていかれることと思います。



NET WORK

会員会社紹介 Vol.56

蓄積されたノウハウと先進技術で 多様化するニーズに応える

東京駅から東北新幹線に乗ること約2時間半。岩手県にある水沢江刺駅で下車。さらにタクシーで15分ほど行くと、東北自動車道のすぐ脇に大きな工場が広がっていた。

取材／(社)日本自動車車体工業会 事務局次長 瓜谷優一

特 徴 沿 革

イワフジ工業(株)は、戦闘機で名を馳せた中島飛行機製作所から始まる。1931年中島飛行機(株)となった後、戦争がひどくなり、東京から岩手・秋田地区に疎開、それが後のイワフジ工業(株)となる。

終戦とともに富士産業(株)と改称すると、国内で開発の遅れていた林業に目を向け、航空機の技術を応用し、軽量、モノコックボデーで高速運転ができる機械式林業ウインチを開発、山からの木材搬出作業を飛躍的に向上させた。

その後、森林鉄道用車両や林業用ブルドーザーを開発。林業用ブルドーザーは、低音時の動作確実

性や性能が評価され、1957年、第1次南極観測隊の昭和基地設営でも活躍している。

1970年には、国内初となる小型油圧ショベルを開発、販売した。この機械は当初、林道の側溝を作る目的で開発した林業用機械であったが、狹窄地の作業に適していると、建設業界で爆発的に普及した。

1980年にイワフジ工業(株)と商号を変更、1984年にラジコン式自走搬機ラジキャリーを開発する。その後高性能林業機械の開発に次々と着手し、現在の林業に欠かせない、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダなどの各種作業用機械を世に送り出した。

特装車は脱着車や高圧洗浄車などの環境機器関連、高所作業車、照明車などの空港関連、融雪剤散布車、散水車などの道路維持関連など、自社開発、受託製品など多岐にわたり生産している。

航空機で培われた技術で、お客様の要望に添った商品をこれからも開発していく。



イワフジ工業 株式会社

DATA

■本社

〒023-0872 岩手県奥州市

水沢区桜屋敷西 5-1

TEL 0197-23-3111

FAX 0197-23-7781

URL <http://www.iwafuji.co.jp>

■資本金 3 億円

■従業員 197 名

■事業所規模

敷地 約 56,582 m²

工場 約 17,184 m²

■車体工業会加入

1996 年(特設部会)



専務取締役
及川 雅之

製 品

——御社の特徴や代表的な製品などについてお聞かせください

及川専務 当社の特徴は、メカニカル、油圧、制御技術、制御系電気技術を三位一体にする技術統合とそれに製造技術を合わせて全て社内で完結させているところです。

林業機械では、小型ハイパワープロセッサ (CT-500A / GP-532)、特装車では、脱着車をはじめ配電工事に利用される YD-033A 形 3 線一折延線車などが特徴的な製品です。

——御社設備で特徴的なものがありますか？

加工設備ではレーザー切断機、NC フライス盤、溶接ロボット、



RL 形ローリフト (RL-4D)

荷台中心位置を極限まで車体前方にしたことで優れた車両バランスを実現

小型ハイパワープロセッサ (CT-500A / GP-532)



伐採された樹木の枝を払い、所定の寸法の丸太に切断、集積する。機械は大きく分けてベースマシン部分とアタッチメントとしてのプロセッサヘッド部分に分けられる。処理能力は人力の 10 倍以上。油圧ショベルの製造技術を駆使したオリジナル林業機械



フェラーバンチャ

立木を伐採し、集積を行う

人

——従業員同士が情報を共有出来る工夫などはされていますか？

お客様の要望に応える商品を作るために、製作日程を変更することがよくあり、現場では日々生産日程会議を行い、作業内容や進捗状況、日程など常に確認するようにしています。

また「STK (生産体質改善活動の略)」と呼ばれる QC 活動も各職場で展開し、作業の効率化、品質向上につなげています。QC 活動は半年に 1 回の割合で、発表会を行っています。



レーザー切断機



開発部での仕事風景

——その他発表会などはありますか？

技術力の向上を目的に、「設計競技会」を始めています。機械技術者、電気技術者を対象にグループ会社と同じ内容で専門的なテストを行い評価するものです。

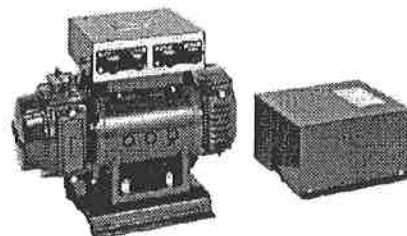
テストに備えて従業員の中で勉強する機会が増え、向上心ややる気に繋がっているようです。

最近になって始めたのですが、仕事の都合でテストを免除していた若い従業員から、自主的にテストを受けたいという、うれしい声も上がるなど今後の活性化にいかして行きたいと考えています。

ゴールドキング㈱ 時代に則した車両用インバータ電源を開発

ゴールドキング㈱は、1950年にロータリーインバータの製作を開始し、その後約50年にわたり、観光バス、路線バス、トラック、鉄道、船舶など車両用のインバータ技術を利用した製品を開発している。

そのさきがけとなったのは、家庭用電気機器を車両用搭載するためのロータリーインバータだった。



1950年に開発されたロータリーインバータは、直流モータ

に交流発電機を一体化した構造で、瞬時に大電流を必要とする負荷に耐え、車両振動等の悪条件にも使用できるものであった。その後、1000ワットのロータリーインバータを開発、バス用に蛍光灯、ボトルクーラ、TV電源として用途を拡げていく。

1960年代になりトランジスタが商品化されると、日本初の1石式のブロッキング発振回路を用いたインバータを蛍光灯点灯電源として開発。「このインバータの大きな特徴は、点灯特性を最適化させるため、磁束漏洩形トランス（変圧器）を用いたことで、特許も取得しています」と後藤氏は語る。

トランジスタの出現は大きな転機ともなり、その後のインバータの開発に欠かせないものとなる。

後藤雅秀（1981年入社）

技術部長
入社時は品質管理課に配属、1989年に技術開発課にて電子回路・マイコンソフト開発に従事。インバータの開発に取組む。
2006年から技術部長となり、設計開発の責任者として、長年培って来た技術を駆使し、新商品開発に従事。



■インバータ各種



現在バスで使用されているインバータ

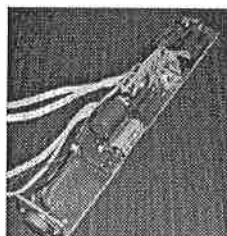


列車用インバータ（開発品）



LED庫内灯

1970年代に使われていたインバータ



その後2石式インバータやマルチ出力インバータ、ロングライフ補助内臓インバータなどお客様や時代のニーズにあわせた商品を開発。

特に2石式インバータは、小型、軽量で、蛍光管のワット数に応じたトランス設計が必要なものの、電気特性が安定しており、現在でもお客様から高い評価をいただいている。

最近ではこれまで培って来たインバータの技術を利用して、近年脚光を浴びつつあるLEDや有機ELなどを使った製品の開発に力を注いでいる。

□ゴールドキング㈱（代表取締役社長 小澤 賢記）

バス、車両機装用電装品および、一般産業用のインバータ、整流器、非常用電源装置等の直流電源応用機器を開発製造。現在、新たにエレクトロニクス&アメニティをテーマに新しい技術の研究と開発に、積極・果敢にチャレンジしている。

本社

〒454-0912 愛知県中川区野田 1-380
TEL：052-352-2421 FAX：052-361-1402
<http://www.goldking.co.jp/>

私たち資材部会は、部会会員を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は、会員のより強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対するより積極的な協力体制が展開されています。

「VOICE」では、シリーズで部会会員会社の製品および技術が開発されるまでの経緯を紹介していきます。

住江織物㈱

古い伝統を新しい力に変えて

住江織物㈱の歴史は古く、1883年の手織り織物の製作に始まる。扱っている製品も、鉄道・バス・船舶内装以外に、一般住宅や参議院本会議室や迎賓館などの内装、劇場で使われる絨毯なども手がけている。

国産第1号となった鉄道シートは1901年、当時の高島屋から依頼され、製作した無地モケットであった。その3年後には、柄モケットを完成させ鉄道院に納入している。

当時はほとんどがウールを主流とした天然素材であったが、1970年代半ばになると、化学繊維が登場し、染色の安定性がよく、強度もあるポリエステル素材が多く使われるようになった。

バスシートの柄は、ヨーロッパのモチーフを参考に独自に開発。「ヨーロッパの重厚な柄が日本で受け入れられるのか、と当時の営業から言われましたが、実際には爆発的人気となりました」とデザイン部の島津氏は語る。それ以来ヨーロッパトレンドはシートデザインには欠かせないアイテムと氏。



見本帳にも時代の変遷をうかがえる。写真は昭和中期頃の見本帳

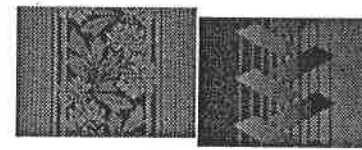
島津邦康（1963年入社・左）

R&Dセンターデザイン課第2デザイングループ
入社後、インテリアデザイン部でカーベットを主にデザイン・開発を担当。その後、産業資材デザイン部車両チームに異動、鉄道・バスの内装材を担当。2007年よりR&Dセンター車両資材デザイン部に所属。



小原孝一（1992年入社・右）

R&Dセンター設計開発課第2設計グループ
京都事業所ドレープ開発室配属後、1998年、開発センター設計開発部に異動。大阪工場第二加工課を経た後2003年、現在の開発センター設計開発部に所属。



バブル期に流行したセンター柄。真ん中に柄があるため、捨てる部分も多かった



最近のトレンドはブルー地にレインボーカラーをあしらったものが人気

また最近では、専用のインクジェットプリンターを使用して柄をつけるという。インクジェットの場合、白生地を用意し、その生地にプリントするのだが、使用するインクは、浸透性などが求められるので、エプソンやコニカなどとの共同開発で自社製の染料を開発した。

1998年には、「トリプルフレッシュ®」を開発。消臭、化学物質の低減を目的にした商品だ。「生地の裏に消臭剤をコーティングして、織り上げ、シートなどに使います。例えば、観光バスについたタバコ臭などは翌朝には消えています」と設計開発部の小原氏。シートのみならず冷蔵庫などにも使用が可能で、現在開発を進めている。

古いものから新しいものへ、脈々と受け継がれてきた技術は、また次に来る時代に沿った商品を生み出す力になっている。

□住江織物㈱（取締役社長 吉川 一三）

創業以来100年以上の伝統の中で、常に技術の向上を目指し、徹底した品質管理のもとに優れた製品を提供。今後も、インテリアアプリアの総合メーカーとして、新しい市場動向を先取りした、21世紀にふさわしい製品を提供していく。

本社・工場

〒542-8504 大阪府大阪市中央区南船場 3-11-20
TEL:06-6251-6801
<http://www.suminoe.jp/>

第4回 SPIN UP トラック部会

スピン・アップ

トラック部会の環境と改善の取り組み事例や創意工夫による製品作りをユーザの皆様を紹介します。

産業機械運搬車の代名詞～ダンプローダー——フジタ自動車工業(株)

ワイドトレッド型鳥居兼用アウトリガージャッキ、歩み板の左右位置合わせを自動で行えるオートスライド、パワフルな油圧ウインチを装備した、産業機械運搬車に要求される先進機能を満載したダンプローダーを製作しました。

特に産業機械を積んだ時、荷重が均等になるよう車両バランスを取るのに最大の工夫をしました。また、積載量を多く取るため軽量化を重視し、鋼材、床材の厚みを薄くする必要もありましたが、設計の工夫により軽量化と耐久性を両立させることが出来ました。ラジコンユニット等の豊富なオプションも備えたスーパートラックが実現できたと考えています。



フジタ自動車工業株式会社
〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶 1500-41
TEL 087-876-5311 FAX 087-876-5312
URL <http://www5.ocn.ne.jp/~fbbody>

新工場開設——本所自動車工業(株)

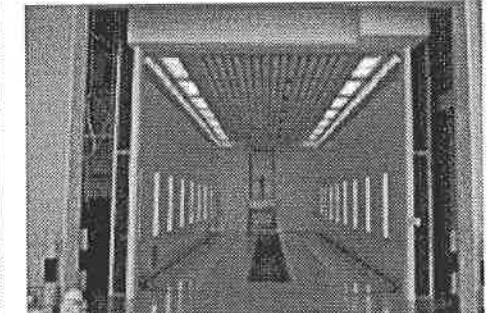
当社は35年にわたり栃木県佐野市で営業してきましたが、工場や機械の老朽化、また、多様化するユーザーニーズに対応するため、このたび隣の足利市に移転することになりました。

佐野工場から一新した新工場の特徴は

- ①工場シャッター開口高さ 4500 mm
→ 背高コンテナ車の工場搬入が可能
- ②柱の無い工場内部にスパン 27.1 m、ホイスト 2 個搭載の天井クレーン×2機設置
→ 長尺荷台も前後で吊り上げられシャシの前後左右どこからでも搭載が可能
- ③下廻り作業用ピット設置 → 低床車両の下廻り作業の容易化
- ④塗装ブースは大型車用×2機、小型車用×1機を設置 → 塗装の時間短縮、品質の向上



工場内部とスパン 27.1 mの天井クレーン



塗装ブース

- ⑤明り取り窓の設置、省エネを考慮等がありますが、それ以外にも機械の新設、社員の教育訓練などを行い、今まで以上にユーザーニーズへの対応、品質の向上に努めています。

本所自動車工業株式会社(新住所)
〒326-0003 栃木県足利市名草下町 1-2-3
TEL 0284-40-2620 FAX 0284-40-2621
URL <http://www.honjo-body.co.jp>

地域社会との共生を目指して エコパートナーシップうじたわら——須河車体(株)

当社では、地域社会と顔の見えるコミュニケーションを図るため、2005年3月より「エコパートナーシップうじたわら」の活動に参加・協力しています。

また「宇治田原町環境保全計画」に賛同し、住民・事業者・行政と良好なパートナーシップを築きながら、「茶文化の源 水、緑、生命の環を育む和みのまち 宇治田原」を実現するために、環境にやさしい取組みを更に積極的に進めていきます。



宇治田原「真夏の茶畑」

須河車体株式会社
〒610-0287 京都府綴喜郡宇治田原町郷ノ口馬廻り 1
TEL 0774-88-4611 FAX 0774-88-4616
URL: <http://www.sugawa.co.jp>

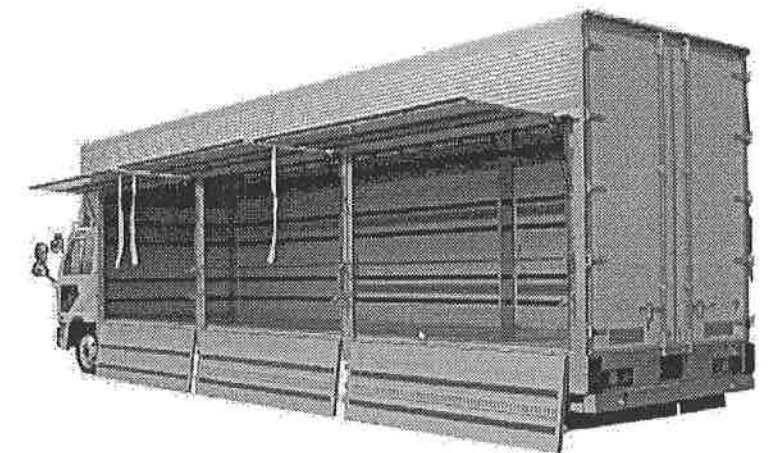
側面開放バン～ドラム缶専用車——四日市車体工業(株)

最新のドラム缶専用車について紹介します。

従来、約 193 本のドラム缶の積載が限度でしたが、ドラム缶 3 段積み最上段のレイアウトを工夫することで 200 本積みを実現しました。

作業性を向上させるため、横左右ブロックあおりに中間ガスダンパーを採用し、ハネ上げ式で全てを開放できるようにしました。

また、約 250 kgの重量軽減を図るため、通常 2.3 mm床鉄板張り仕様にするところを FRPライニング仕様に変更しました。この FRPライニングにより床は継ぎ目もなく、荷物を滑らす等出し入れが容易になり、作業性も向上させることが出来ました。固定用ラッシングレールのあたりゴムを工夫することによりドラム缶を傷つけずに保持性を高めています。



四日市車体工業株式会社
〒510-0951 三重県四日市市小古曾東 2 丁目 6-24
TEL 059-346-1321 FAX 059-346-6054

そこが知りたい

第8回

ダカールラリーに挑む その車両とは？

今年から南米に開催地を移したダカールラリーにおいて、トヨタ車体チームのランドクルーザーが市販車部門で4年連続優勝の快挙をあげた。

今回はトヨタ車体チームの環境に配慮した取組みやランドクルーザーラリー車の構造上の工夫点などについてトヨタ車体側の担当者にいろいろと伺った。

■「ダカールラリー」とは？



1979年フランスの冒険者、ティエリー・サビーヌの提唱により始まり、2009年大会で30回目となった。クロスカントリーラリーの最高峰。走行距離約1万km、開催期間は約2週間というロングステージであり、四輪、二輪、トラック合わせて約500台が世界各国から参戦する。完走率は30%~50%という世界一過酷なラリーである。

トヨタ車体チームは2号車が転倒したり、終盤で走行不能になったりとアクシデントに見舞われたが、チームプレイで見事に乗り切り、快挙を遂げた。

ダカールラリー2009大会概要

開催日程：2009年1月3日~18日(16日間)

開催場所：アルゼンチン、チリ

走行距離：9574km(競技区間5652km)

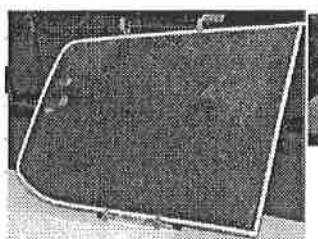
■環境に配慮した取組みとは？

今回のレースでは、廃食油から精製したバイオディーゼル燃料を約20%混入して使用している。この燃料はトヨタ車体の従業員の家庭や社員食堂、一般の方々から廃食油を回収。その廃食油に化学処理を行い、軽油に近い物質に変化させ、精製した。走行には問題なく、軽油に比べてCO₂の排出量を13%削減することに成功した。

また、車両の後部ウィンドウ部分をFRPボードからケナフボードに変更。ケナフボードは植物の繊維で作られたもので、廃却される時にCO₂を出しても、大気中のCO₂を増やさない効果がある。



精製されたバイオディーゼル燃料を現地まで効率的に運搬できるのは、ドラム缶4本分。他の部品とともにコンテナで搬送された。

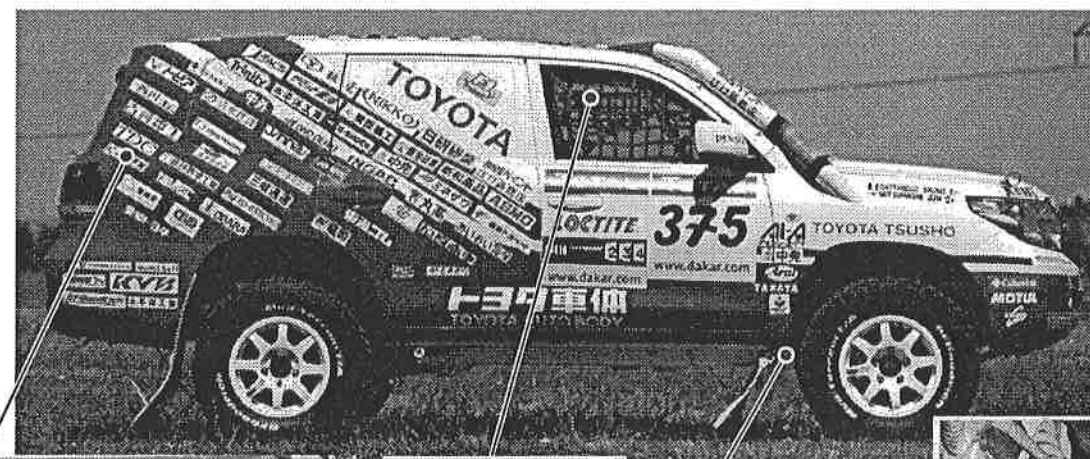


ケナフで作られたバイオプラスチックボード(左)。ケナフの皮からとった繊維(上)で作られている。



■市販車部門のレギュレーションで許される改造範囲とは？

市販車部門は改造範囲を厳しく制限され、エンジン・ミッション・デフ等、駆動系の主要部品は変更できない。フレームやボデーについては一定の方法に基づく補強が認められている。ブレーキもパッドの変更までということであった。そんな中で、今回デビューウィンを果たしたトヨタランドクルーザー200の競技車両は、ディーゼルエンジン搭載車をベースにランクル200の特長を活かしながら、最高レベルのポテンシャルを持つラリー車に仕上げられた。ここではその一部を紹介する。



・後席部

リヤシートや内装部品等を取り外した後席部には、長距離走行に備え、容量390リットルの安全・燃料タンクを配置。荷室には最大4本のスペアタイヤを搭載



・アンダーガード

岩などの接触から構造物を保護するために、強化品を装備

・室内

安全装備として乗員を守るロールオーバーや専用のシート、6点式ベルト、消火器などを装備



・サスペンション

前後のサスペンションはスプリングのバネ定数を高め、専用のリザーバタンク付単筒ガス式ショックアブソーバを装着。モロッコでの開発テストを経て、さまざまな路面での操安性を最適化

・ボデー・フレーム

市販車部門では基本骨格を変更できない。必要に応じ、パネルの2枚重ね等でボデー・フレーム強度の最適化を図る

■砂塵・熱対策は？

砂漠地帯を走るラリー車の信頼性向上のために行った対策は、フロントピラー沿いにエンジン吸気用のシュノーケルを設定し、砂塵の吸入を極力抑える。

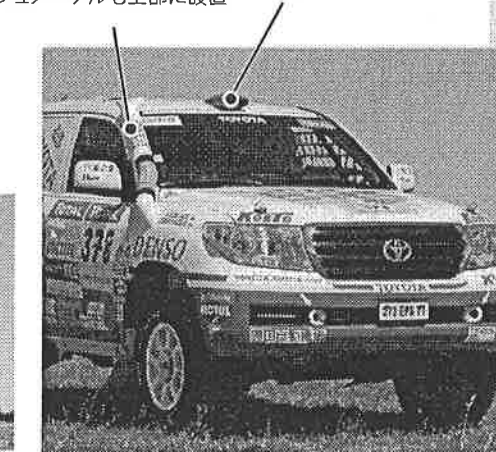
また、燃料の給油口をルーフに設け、給油時の砂塵混入を防止したり、フレーム内へ土砂の堆積を防止するため、フレームの軽減穴を塞いだりしている。

熱に対しては、軽量化も考慮して、ポリエステル不織布の断熱材を適所に設定し、室内の温度上昇を抑える一方、送風用ルーフダクトを設置し、ドライバーの暑さ対策としている。

車体上部に設置された給油口



送風用ルーフダクトを設置
シュノーケルも上部に設置



(取材協力/資料提供:トヨタ車体㈱)

member's essay

Coffee Break

サブロク復元

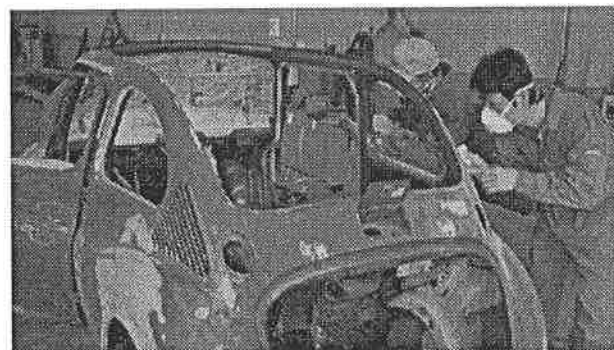
兼松エンジニアリング(株) 田中 栄一

当社には、マシーンクラブと名づけた「自動車」の大好きな社員の集まりがあります。クラブ員は私を含め10名、メカ音痴から整備資格者まで、幅広い層で週末に活動しています。

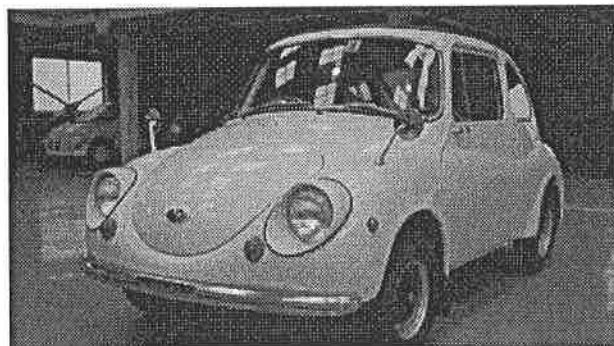
今までの活動では、市販車を電気自動車に改造(四国EVラリーへの参加)や、旧車のレストア(三輪ミゼット/マツダK360)などと、いろいろなことにチャレンジしながら知識を深めています。

今回は、昨年完成させた「S43年式スバル360(通称サブロク)」のレストアを紹介します。

知人から譲り受けた、スクラップ寸前の「サブロク」を自分達のクラブで復元しないかと、持ちかけたところ、「プロジェクトXで見た車」とか、「現車を見たのは初めて」と言う声がありました。クラブ員のほとんど



錆を落とすものも一苦労



見事に復元された「サブロク」

が生まれる以前に生産されていた車です。しかし、愛嬌のある卵型デザインでかわいい顔立ち、ひと目見た部員達は、全員一致で「早く乗れるように直そうや」とやる気満々。B. G. Mは当然「地上の星」で決まり、「気分は、プロジェクトX」です。

まずはボディー周りの分解作業に取りかかりましたが、40年以上前に生産された車、ボルト類は錆で回らず折れ、ゴム類は劣化どころか、消滅して無い状態、座席部の足元には大きな穴、やはり予想どおり、作業前半は、週末毎に錆と奮闘、小さな「サブロク」からバケツ一杯分の錆が出ました。続いては、パテ研ぎ作業で体中が粉だらけの日々、サンドペーパーで指の指紋が消えたクラブ員も少なくありません。幾度と当たる壁を乗り越えながらも、何とかボディー復元完了。次なる難題「欠品パーツ探し」と、思いきや、ここでは、若手クラブ員の活躍でインターネット検索、ほとんどのパーツが思った以上のスピードで入手でき、「サブロク」は1年足らずで完成に至りました。(エンジン部オーバーホール済み、内容省略)

完成後、工場内の駐車場で、ドドドド…の排気音と共に白煙を吐きながら走る「サブロク」をクラブ員たちと眺めて、何とも言いがたい達成感に酔いしれたひととき。この時の「Coffee Break」は最高の味でした。

"インディアカ"に夢中

東プレ(株) 伊藤 昌彦

私は学生時代からバレーボールを熱心にやっており、旭川市内では珍しく屋外コートで天候(雨、風)の影響を受け、地面が土ということもあって傷だらけになりながら先輩の叱咤激励に耐えていたのを思い出します。

その甲斐あって、市内では無敵を誇っていましたが、春高バレー予選ではあと一勝ができず出場を逃し悔しい思いをしました。これを晴らすべく大学でも続け、仲間に恵まれて弱小チームは北海道3部リーグから1部リーグ昇格しましたが、これが精一杯。スポコン伊藤は社会人になってもこりずに続けましたが、35歳を過ぎて体力の限界を感じバレーボールを引退しました。そんな中、近所の人から紹介されたのが『インディアカ』でした。

『インディアカ』とは、バトミントンコートにて4人(チーム)でバレーボールのボールの代わりに25cmの羽根(50g)を素手で打ち合うドイツ生まれのスポーツです。ルールは、ほぼバレーボールと同じです。

羽根を使うので、滞空時間が長くパワーは必要なく、ネットは低い(2m)ので差ほどジャンプしなくても

よいので初心者でも楽しめます。

47歳になった今も、このスポーツにハマって、週2回の練習も20名を超える仲間とワイワイ楽しんでいます。最近は、大会後の飲み会がメインになりつつありますけど!ぜひ、機会あれば★越川 優★高橋みゆき★になってみませんか。

※『インディアカ』の詳しい情報はホームページ[日本インディアカ協会]へ

【朗報】

この原稿を書いている最中、全日本大会出場要請の連絡があり、栃木県代表として7月4日(東京体育館)の大会に出られることになりました。思いもよらなかったのでビックリですけど、一花咲かせようかと思っています。



第34回栃木県インディアカ大会優勝(上段真ん中が筆者)

たまには絵描きになる

八千代工業(株) 西園寺 洋一

絵を描く。趣味とは言えませんが時折、風まかせに筆を走らせています。

私は普段から、はがきサイズのスケッチブックを持ち歩き、出掛ける電車の中で印象に残った風景を水性ペンで描きとめています。描くものとは鉄道のある風景。もともと鉄道が好きで、鉄道車輛のデザインを11指し芸術大学に進学したので、スケッチを描くのはなんら苦になりません。はじめは空想の鉄道車輛などを描いていたのですが、それは単なる自己満足の絵空事に過ぎなくて…。いつしか、散歩した街並みを描いてみたら、意外と描けるという自分の可能性を見出し、描き始めてみました。都内を散歩することが多い私は、時代とともに変わる、沿線風景と鉄道車輛をからめる絵が多く、わざと時代考証に合わない組み合わせで描いてみたりと、時代創作をしています。

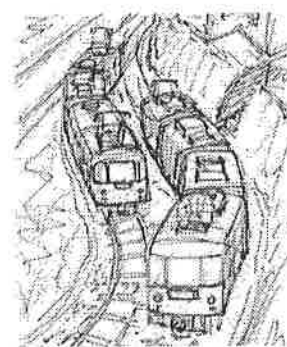
最近描いたものでは、東急世田谷線が小田急線と交差する山下駅付近の様子です。東急世田谷線は世田谷区内をのんびりと2両編成の電車が走り、沿線は古くから残る商店や銭湯などと、新しく建った住宅、商業施設といった、のどかさとの時代が混在している風景が、どことなく自分の心に探究心をそそるお散歩スポットなのです。そんな沿線で最近大きく変わった風景と言えば、この山下駅付近かと思います。絵では世田谷線の電車はこの車輛ですが上を行く小田急線は複々線化前のガーター橋と昔のロマンスカーにしてみました。

時代考証をするとこの組み合わせは実現しないのですが、写真と違い絵では現実起こり得ない景色を具現化できるのも楽しいところです。電車や街の様子は時

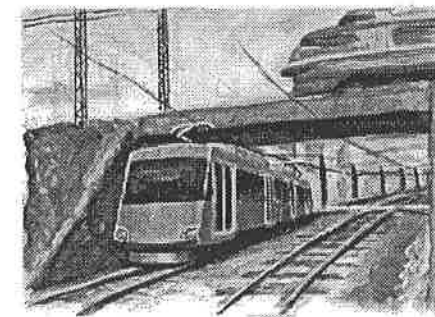
が経つにつれて徐々に変化していきますが、自分の印象に残っている風景は心の中に焼きついてはなれないものです。そんな心に残る風景を描き残していければと思っています。

絵を描くことは精神集中と体力がとても重要だと最近感じるようになりました。気が乗らない時は、絵の具をチューブから出すこと自体が億劫になります。でも調子が上がるとどんどん自分の表現したい世界にのめり込み、時間が過ぎるのを忘れるほど没頭してしまいます。精一杯描くためにはこののめり込む調子に自分をどう持っていくか、それには描く前の前座が必要不可欠なのです。自分の場合、まだ明確な前座を見つけれないのが現実です。

描く風景もですが、この前座も見つけないかと思う今日この頃なのです。



水性ペンで描いた色を付ける前のスケッチ



東急世田谷線山下駅付近の様子



2009.夏

お客様の満足を目指して！

三菱ふそうトラック・バス(株) 小型バス工作部 小川 修康さん

Q 1 どんなお仕事ですか？
小型バスを製造する工場で、ボデーの塗装を担当しています。今年で6年目になります。
まだまだ未熟で、微かな感覚と経験が必要な作業のため、先輩方のアドバイスを受けながら日々勉強中です。

Q 2 仕事で楽しいこと、つらいこと
街中で走っている小型バスを見ると自分が塗装した車かもしれないと思い、少しうれしくなります。

Q 3 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？
塗装作業は2度塗りが基本となっております。2度目の塗装を仕上げ塗りといい、仕上げ塗りの方が最終の製品の状態となるため難しいのですが、この仕上げ塗りで初めてミスなく塗装できた時のことが大変うれしく印象に残っています。



Q 4 御社のPRをしてください！
1台1台の車に、作業員ひとりひとりが責任を持ち、よりよい製品を作ろうと従業員が丸となって頑張っている会社です！

広告宣伝でお客様にアピール

日本トレクス(株) 営業企画室 矢田 誠さん



Q1 どんなお仕事ですか？
広告宣伝業を主に、広告の立案や展示会の運営等を行っています。
また、日常的には、当社の営業現場を支援する業務を行っています。

Q 2 仕事で楽しいこと、つらいこと
自分がデザインした広告に反響があった時は、充実感を感じます。しかし営業経験がないので、現場本来の悩みを理解できない時などはつらいです。

Q 3 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？
何カ月も準備してきたトラックショーが無事終わったことです。

Q 4 御社のPRをしてください！
多くのお客様のご要望にお応えできるよう、品質・技術面で日々努力しています。信頼のメーカーとして今後もよろしくお願いします。

トラック車体 2009年 1月～3月 生産台数

用途		1月						2月						3月					
		大型	中型	小型	軽	合計	対前年同月比(%)	大型	中型	小型	軽	合計	対前年同月比(%)	大型	中型	小型	軽	合計	対前年同月比(%)
運 転 台	普 通	7	61	3,601	0	3,669	74.7	6	46	2,622	0	2,674	46.1	9	39	3,012	0	3,060	50.7
	特 殊	34	4	2,188	0	2,226	41.3	32	9	1,263	0	1,304	21.7	9	9	1,046	0	1,064	17.2
合 計		41	65	5,789	0	5,895	57.2	38	55	3,885	0	3,978	33.7	18	48	4,058	0	4,124	33.7
対前年同月比(%)		85.4	58.6	57.0	0.0	57.2		118.8	25.9	33.6	0.0	33.7		64.3	21.7	33.9	0.0	33.7	
普 通	標準型(シャシーメーカー標準車)	0	78	860	0	938	34.7	0	112	1,109	0	1,221	44.0	0	103	532	0	635	23.8
	アルミブロック	25	28	3	0	56	40.3	22	40	6	0	68	38.6	19	34	5	0	58	28.0
	普通型あり	14	60	8	0	82	41.2	12	56	9	0	77	21.3	18	53	16	0	87	21.9
	その他(スチール、コルゲート等)	0	1	0	0	1	25.0	3	0	0	0	3	42.9	0	0	1	0	1	16.7
	アルミブロック	61	30	10	0	101	43.0	45	29	14	0	88	28.1	59	48	25	0	132	30.3
通 常	スタンダード(木製)	0	0	0	0	0	0.0	3	0	2	0	5	55.6	2	0	0	0	2	11.8
	その他(スチール、コルゲート等)	1	1	0	0	2	18.2	0	0	0	0	0	0.0	4	1	0	0	5	45.5
荷 台	チップ運搬車	1	0	0	0	1	100.0	2	0	0	0	2	50.0	2	0	0	0	2	40.0
	オートハイ積	0	0	4	0	4	133.3	1	1	3	0	5	50.0	1	1	6	0	8	114.3
	1台積	0	13	99	0	112	61.2	0	13	98	0	111	55.8	1	14	110	0	125	48.6
	2台積	0	4	4	0	8	50.0	0	1	1	0	2	14.3	0	3	6	0	9	42.9
	3台積	0	3	0	0	3	25.0	2	2	0	0	4	50.0	1	2	0	0	3	50.0
平 板	4台積以上	10	0	0	0	10	76.9	10	0	0	0	10	66.7	2	0	0	0	2	8.7
	車輦運搬用	7	0	0	0	7	100.0	2	0	0	0	2	22.2	2	0	0	0	2	14.3
	フルトラクタ	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0
	産業機械	18	1	0	0	19	73.1	13	1	0	0	14	56.0	3	1	2	0	6	12.8
	運搬車	17	4	0	0	21	61.8	6	1	0	0	7	14.3	11	11	0	0	22	47.8
ボ デー	その他	4	0	0	0	4	40.0	4	0	0	0	4	33.3	4	0	0	0	4	80.0
	家畜運搬車	1	0	0	0	1	—	0	2	0	0	2	200.0	2	2	0	0	4	200.0
	側面開放車	11	22	0	0	33	41.3	1	17	1	0	19	19.4	0	12	0	0	12	10.6
	(幌製)	1	0	1	0	2	22.2	0	1	5	0	6	150.0	0	1	7	0	8	88.9
	コンテナ兼用車	0	0	0	0	0	0.0	1	0	0	0	1	100.0	4	0	0	0	4	80.0
脱 着	ボデー	0	0	0	0	0	0.0	0	1	0	0	1	50.0	0	1	0	0	1	33.3
	その他	4	1	12	0	17	17.3	2	1	9	8	20	24.4	2	1	13	2	18	18.2
	合 計	175	246	1,001	0	1,422	37.5	129	278	1,257	8	1,672	40.0	137	288	723	2	1,150	26.1
対前年同月比(%)		58.5	33.1	36.3	0.0	37.5		34.9	27.5	44.9	266.7	40.0		29.0	25.3	25.9	—	26.1	

乗用車および商用車車体 2009年 1月～3月 生産台数

車 種		1月				2月				3月			
		国内	輸出	計	対前年同月比(%)	国内	輸出	計	対前年同月比(%)	国内	輸出	計	対前年同月比(%)
乗 用 車	セダン、ハッチバックタイプ	28,168	26,358	54,526	90.8	16,320	9,993	26,313	39.7	18,069	11,271	29,340	46.9
	ステーションワゴン	13,373	16,420	29,793	56.5	12,630	6,943	19,573	32.3	15,318	8,341	23,659	39.2
	ミニバンタイプ	4,790	271	5,061	102.0	9,055	398	9,453	213.7	10,937	403	11,340	191.7
	オフロードタイプ	1,281	14,435	15,716	53.5	1,412	9,771	11,183	34.2	2,090	9,482	11,572	35.1
	キャブオーバータイプ	11,858	29	11,887	42.1	10,884	17	10,901	33.5	14,741	122	14,863	47.0
商 用 車	ツープボックスバン	1,838	1,748	3,586	83.0	2,363	1,258	3,621	80.8	2,536	1,292	3,828	67.2
	キャブオーバーバン	7,073	1,270	8,343	67.0	7,039	945	7,984	52.6	9,070	1,077	10,147	67.2
	キャブオーバートラック	1,123	0	1,123	0.0	1,361	0	1,361	0.0	1,224	0	1,224	0.0
	ボンネットトラック(シングルキャブ)	0	768	768	44.0	0	376	376	17.9	0	389	389	19.2
	ボンネットトラック(ダブルキャブ)	0	2,107	2,107	42.3	0	1,160	1,160	20.1	0	926	926	16.0
合 計		69,504	63,406	132,910	66.8	61,064	30,861	91,925	41.0	73,985	33,303	107,288	48.3

特装車車体 2009 年 1 月～3 月 生産台数

車 種		1 月										2 月										3 月										対前年 同月比 (%)
		基準 外	大型	中型	小型	軽	国内 計	輸出	合計	対前年 同月比 (%)	基準 外	大型	中型	小型	軽	国内 計	輸出	合計	対前年 同月比 (%)	基準 外	大型	中型	小型	軽	国内 計	輸出	合計	対前年 同月比 (%)				
ダンプ車	リヤダンプ	0	89	204	183	189	665	390	1,055	43.9	0	110	177	209	179	675	257	932	31.0	0	167	183	188	168	696	381	1,077	33.6				
	三転ダンプ	0	0	7	9	0	16	0	16	69.6	0	0	0	13	0	13	0	13	40.8	0	0	1	14	0	15	0	15	41.7				
	傾場リダンプ	0	25	4	3	3	35	7	42	68.9	0	29	8	2	4	43	0	43	69.4	0	36	8	5	4	53	0	53	67.1				
	その他	0	8	14	4	0	26	0	26	37.7	0	14	14	9	0	37	0	37	68.7	0	14	23	5	0	42	0	42	56.8				
タンクローリー	石油類	0	16	12	7	0	35	7	42	89.4	0	14	9	9	0	32	4	36	65.5	0	20	35	9	0	64	1	65	68.4				
	農薬	0	7	0	0	0	7	0	7	175.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	5	0	0	0	5	0	5	83.3				
	散水・給水	0	0	42	11	0	53	62	115	171.6	0	5	5	3	0	13	26	39	92.9	0	7	11	1	0	19	5	24	77.4				
	食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	1	1	0	0	2	0	2	0.0				
	その他	0	5	0	0	0	5	4	9	300.0	0	5	0	1	0	6	0	6	150.0	0	5	0	0	0	5	6	11	137.5				
高圧ガスタンクローリー	LPG	0	2	2	1	0	5	0	5	125.0	0	1	4	0	0	5	0	5	100.0	0	3	11	1	0	15	0	15	125.0				
	その他	0	2	0	0	0	2	0	2	200.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	4	0	0	0	4	0	4	133.3				
トラックミキサ車	アジテータ	0	67	5	5	0	77	0	77	42.1	0	35	16	3	0	54	8	62	32.3	0	34	9	5	0	48	12	60	28.7				
	ドライ	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0				
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0				
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0				
粉粒体運搬車	純粋	0	10	4	1	0	15	0	15	136.4	0	12	1	0	0	13	0	13	68.4	0	18	1	0	0	19	0	19	61.3				
	ババセメント	0	12	0	0	0	12	0	12	37.5	0	16	0	0	0	16	0	16	33.3	0	18	0	0	0	18	0	18	32.1				
	その他	0	2	0	0	0	2	0	2	33.3	0	4	0	0	0	4	0	4	133.3	0	3	0	0	0	3	0	3	60.0				
消防車	消防ポンプ車	0	0	56	0	0	56	0	56	112.0	0	0	86	0	0	86	0	86	139.7	0	0	76	1	0	77	0	77	—				
	梯子消防車	0	9	0	0	0	9	0	9	225.0	0	7	1	0	0	8	1	9	75.0	0	14	0	0	0	14	4	18	0.0				
	化学消防車	0	1	1	0	0	2	0	2	25.0	1	2	4	0	0	7	0	7	100.0	2	1	3	0	0	6	8	14	233.3				
	消防タンク車	0	0	17	0	0	17	0	17	212.5	0	0	21	0	0	21	0	21	150.0	0	0	12	0	0	12	0	12	0.0				
	消防指揮・指揮車	0	0	1	0	0	1	0	1	9.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	1	0	1	0	1	0.0				
	その他	0	6	12	2	0	20	0	20	666.7	0	13	2	0	0	15	1	16	88.9	0	4	3	0	0	9	0	9	—				
	その他	0	3	3	0	0	6	0	6	42.9	0	0	1	0	0	1	0	1	4.8	0	5	8	0	0	13	1	14	48.3				
コンクリートポンプ車	ブーム付き	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0				
	ブームなし	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0				
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0				
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0				
環境衛生車	じん芥車機械式	0	32	100	88	0	220	20	240	62.0	0	42	114	190	0	346	73	419	95.0	0	2	126	252	0	380	62	442	69.4				
	じん芥ダンプ車(低床)	0	0	0	0	6	6	0	6	600.0	0	0	0	4	9	13	0	13	130.0	0	0	0	2	6	8	0	8	61.5				
	衛生車	0	3	37	16	0	56	0	56	76.7	0	13	51	16	0	80	1	81	81.0	0	9	61	17	0	87	1	88	75.2				
	清掃車	0	14	13	1	0	28	8	36	92.3	0	21	27	2	0	50	12	62	150.0	0	29	29	7	0	65	2	67	145.7				
	路面清掃車	0	7	0	1	0	8	0	8	100.0	0	3	4	1	0	8	0	8	66.7	0	7	2	4	0	13	0	13	118.2				
	その他	0	1	2	1	0	4	11	15	500.0	0	0	0	4	0	4	0	4	400.0	0	1	6	2	0	9	1	10	58.8				
高所作業車	ダンプ式	0	1	2	183	0	186	0	186	58.3	0	0	3	195	0	198	3	201	59.6	0	1	4	179	0	184	1	185	61.7				
	機械式	0	0	3	0	0	3	0	3	—	0	0	3	1	0	4	0	4	—	0	1	6	1	0	8	0	8	—				
その他	トラッククレーン	5	2	0	0	0	7	28	35	437.5	7	0	0	0	0	7	22	29	223.1	4	0	0	0	0	4	6	10	—				
	空槽用作業車	0	6	1	4	0	11	0	11	84.6	5	12	0	5	0	22	0	22	146.7	5	8	0	8	0	21	0	21	700.0				
	運路作業車	0	0	0	1	0	1	0	1	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0				
	除雪車	0	1	1	0	0	2	0	2	13.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0				
	穴掘機等車	0	0	10	4	0	14	3	17	68.0	0	0	5	6	0	11	0	11	40.7	0	0	10	20	0	30	1	31	103.3				
	レッカー車	0	0	0	1	0	1	0	1	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	1	0	1	0	1	0.0				
	その他	0	10	1	2	0	13	0	13	56.5	0	15	5	3	0	23	1	24	96.0	0	7	0	9	0	16	0	16	76.2				
合 計 ①		5	353	577	533	198	1,666	541	2,207	54.0	13	391	596	681	193	1,874	409	2,283	46.8	11	436	672	746	178	2,043	493	2,536	46.8				

< 装 置 >

テールゲートリフト	取付装置台数 ㊟	0	2	42	198	21	263	0	263	64.6	0	4	45	232	16	297	0	297	52.6	0	1	38	280	27	346	0	346	56.7
	装置のみの生産数	0	28	191	703	100	1,022	0	1,022	68.9	0	62	273	923	194	1,452	0	1,452	74.4	0	37	245	844	171	1,297	5	1,302	70.4
クレーン付トラック	取付装置台数 ㊟	0	42	96	89	0	227	54	281	67.2	0	36	96	97	0	229	54	283	54.6	0	30	113	102	0	245	33	278	43.7
	装置のみの生産数	0	40	184	132	0	256	18	374	87.2	0	34	226	61	0	321	10	331	53.8	0	11	52	229	0	292	8	300	51.2
吸着コンテナのみの生産数		0	50	348	64	0	462	0	462	61.5	0	32	374	84	0	490	0	490	66.5	0	112	424	78	0	614	0	614	53.4

バン型車体 2009 年度 1 月～3 月 生産台数

(単位:台)

材 質	車 体 の 大 き さ	スチール製					アルミ製					FRP製					合 計					対前月 年 比 (%)	
		大 型	中 型	小 型	軽	小 計	大 型	中 型	小 型	軽	小 計	大 型	中 型	小 型	軽	小 計	大 型	中 型	小 型	軽	合 計		
																							用 途
1 月	ドライバン	0	0	1	0	1	208	131	617	12	968	0	0	0	0	0	208	131	618	12	969	67.4	
	冷凍庫	機械式	0	0	39	7	46	69	172	338	29	608	10	135	102	9	256	79	307	479	45	910	98.3
		蓄冷式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	0	0	5	0	5	100.0
		小計	0	0	39	7	46	69	172	338	29	608	10	135	107	9	261	79	307	484	45	915	98.3
	保冷車	0	0	4	0	4	4	23	88	3	118	3	11	41	2	57	7	34	133	5	179	69.4	
	オープンバン	0	0	0	0	0	1	1	14	0	16	0	0	0	0	0	1	1	14	0	16	34.0	
	ウイング	ドライ	0	0	0	0	0	323	196	43	0	562	/	/	/	/	/	323	196	43	0	562	37.6
		冷凍（機械式）	0	0	0	0	0	28	19	0	0	47	/	/	/	/	/	28	19	0	0	47	71.2
		小計	0	0	0	0	0	351	215	43	0	609	/	/	/	/	/	351	215	43	0	609	39.0
	ウォークスルーバン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	ボトル運搬車	0	0	0	0	0	0	48	41	0	89	0	0	0	0	0	0	48	41	0	89	48.9	
	その他	0	0	0	0	0	3	1	2	0	6	0	0	0	0	0	3	1	2	0	6	35.3	
	合 計	0	0	44	7	51	636	591	1,143	44	2,414	13	146	148	11	318	649	737	1,335	62	2,783	62.8	
	対前年同月比(%)	0.0	0.0	88.0	233.3	91.1	72.1	44.0	67.3	86.3	60.8	92.9	84.4	80.4	33.3	78.7	72.4	48.6	69.1	71.3	62.8		
2 月	ドライバン	0	0	0	0	0	256	160	1,096	13	1,525	0	0	0	0	0	256	160	1,096	13	1,525	60.4	
	冷凍庫	機械式	0	0	37	5	42	80	270	267	41	658	14	185	169	3	371	94	455	473	49	1,071	89.1
		蓄冷式	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	5	11	17	0	2	5	11	18	150.0
		小計	0	0	37	5	42	80	271	267	41	659	14	186	174	14	388	94	457	478	60	1,089	89.7
	保冷車	0	0	5	0	5	1	18	69	10	98	1	5	38	0	44	2	23	112	10	147	44.3	
	オープンバン	0	0	0	0	0	0	1	16	0	17	0	0	0	0	0	0	1	16	0	17	45.9	
	ウイング	ドライ	0	4	0	0	4	268	215	46	0	529	/	/	/	/	/	268	219	46	0	533	29.9
		冷凍（機械式）	0	0	0	0	0	30	14	0	0	44	/	/	/	/	/	30	14	0	0	44	40.7
		小計	0	4	0	0	4	298	229	46	0	573	/	/	/	/	/	298	233	46	0	577	30.5
	ウォークスルーバン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	ボトル運搬車	0	0	0	0	0	0	70	49	0	119	0	0	0	0	0	0	70	49	0	119	54.8	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	合 計	0	4	42	5	51	635	749	1,543	64	2,991	15	191	212	14	432	650	944	1,797	83	3,474	55.8	
	対前年同月比(%)	0.0	200.0	87.5	100.0	91.1	51.4	46.3	57.2	90.1	53.2	78.9	79.9	77.7	87.5	79.0	51.8	50.8	59.5	90.2	55.8		
3 月	ドライバン	0	0	0	0	0	260	186	874	10	1,330	0	0	0	0	0	260	186	874	10	1,330	58.1	
	冷凍庫	機械式	0	0	62	4	66	221	351	286	27	885	18	241	214	7	480	239	592	562	38	1,431	98.3
		蓄冷式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	13	0	0	13	0	13	433.3
		小計	0	0	62	4	66	221	351	286	27	885	18	241	227	7	493	239	592	575	38	1,444	99.0
	保冷車	0	0	4	2	6	2	5	127	14	148	1	8	23	6	38	3	13	154	22	192	43.0	
	オープンバン	0	0	0	0	0	1	6	15	0	22	0	0	0	0	0	1	6	15	0	22	31.4	
	ウイング	ドライ	0	0	0	0	0	259	230	48	0	537	/	/	/	/	/	259	230	48	0	537	26.3
		冷凍（機械式）	0	0	0	0	0	62	25	1	0	88	/	/	/	/	/	62	25	1	0	88	56.8
		小計	0	0	0	0	0	321	255	49	0	625	/	/	/	/	/	321	255	49	0	625	28.4
	ウォークスルーバン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	ボトル運搬車	0	0	0	0	0	0	57	67	0	124	0	0	0	0	0	0	57	67	0	124	38.9	
	その他	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3	18.8	
	合 計	0	0	66	6	72	806	861	1,419	51	3,137	19	249	250	13	531	825	1,110	1,735	70	3,740	55.0	
	対前年同月比(%)	0.0	0.0	64.7	85.7	60.5	56.6	44.5	54.6	66.2	52.0	111.8	80.6	83.6	68.4	82.5	56.9	49.4	57.8	68.0	55.0		

バス車体 2009 年 1 月～3 月 生産台数

(単位:台)

用 途		1 月							2 月							3 月						
		大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	マイクロ	合 計	対前年 同月比(%)	大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	マイクロ	合 計	対前年 同月比(%)	大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	マイクロ	合 計	対前年 同月比(%)
標 準	路 線	207	66	0	22	0	295	105.0	231	66	0	19	0	316	115.8	105	20	0	16	0	141	73.1
	観 光	1	2	0	4	0	7	35.0	1	4	0	6	0	11	55.0	25	10	0	10	0	45	160.7
	自家用	5	33	0	340	3,789	4,167	100.3	28	40	0	467	3,465	4,000	70.5	22	28	0	510	3,306	3,866	60.0
	幼 児			0	40	12	52	173.3			0	73	1	74	90.2			0	83	8	91	82.0
ハイデッカ	路 線	26	0				26	49.1	36	0				36	105.9	39	0				39	130.0
	観 光	74	0				74	123.3	71	0				71	55.5	52	0				52	55.9
	自家用	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0
スーパー ハイデッカ	路 線	0	0				0	0.0	3	0				3	300.0	2	0				2	66.7
	観 光	13	0				13	86.7	10	0				10	29.4	20	0				20	54.1
	自家用	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0
ダブル デッカ	路 線	2	0				2	—	3	0				3	300.0	1	0				1	—
	観 光	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0
	自家用	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0
国 内 向 計		328	101	0	366	3,789	4,584	99.9	383	110	0	492	3,465	4,450	72.2	266	58	0	536	3,306	4,166	61.0
輸 出 向		0	0	0	1,656	3,144	4,800	65.8	0	0	0	985	1,462	2,447	29.7	0	0	0	597	1,271	1,868	26.3
合 計		328	101	0	2,022	6,933	9,384	79.0	383	110	0	1,477	4,927	6,897	47.9	266	58	0	1,133	4,577	6,034	43.3
対前年同月比(%)		94.8	95.3	0.0	83.7	76.9	79.0		92.7	85.9	0.0	51.9	44.8	47.9		73.9	38.4	0.0	39.4	43.4	43.3	

トレーラ 2009 年 1 月～3 月 生産台数

(単位:台)

形状別 種類別	区分	低床	中低床
------------	----	----	-----

トラック車体 2008 年度 生産台数

用途別		車の大きさ	大型	中型	小型	軽	合計	(単位:台) 対前年比 (%)
運 転 台	普 通		398	1,197	62,067	0	63,662	110.0
	特 殊		570	121	55,076	0	55,767	85.6
合 計			968	1,318	117,143	0	119,429	97.1
対 前 年 比 (%)			83.4	95.2	97.3	0.0	97.1	
普 通 荷 台 ／ 平 ボ デ ー	標準型(シャシメーカー標準車)		0	3,470	22,201	0	25,671	67.3
	普通型あり (450mm以下)	アルミブロック	442	633	81	0	1,156	62.9
		スタンダード(木製)	278	1,385	200	0	1,863	59.0
		その他 (スチール、コルゲート等)	54	18	5	0	77	57.9
		アルミブロック	1,028	794	284	0	2,106	60.5
	深あり	スタンダード(木製)	44	16	10	0	70	19.7
		その他 (スチール、コルゲート等)	51	6	5	0	62	55.9
		チップ運搬車	52	0	0	0	52	106.1
	車両運搬車	オートバイ積	20	5	51	0	76	96.2
		1台積	8	302	1,849	0	2,159	90.6
		2台積	2	79	52	0	133	69.3
		3台積	14	40	0	0	54	53.5
		4台積以上	141	0	0	0	141	74.2
	車両運搬用 トラクタ	セミトラクタ	60	0	0	0	60	77.9
	産業機械 運搬車	フルトラクタ	1	0	0	0	1	6.7
		車両傾斜式	288	19	2	0	309	71.0
		荷台スライド式	263	80	14	0	357	69.5
		その他	86	3	0	0	89	76.7
	家畜運搬車		7	8	0	0	15	78.9
	側面開放車 (幌製)	ハネ上げ式	223	434	8	0	665	51.2
		カーテン式	13	18	43	0	74	67.9
	コンテナ兼用車		23	8	0	0	31	110.7
	脱着ボデー		6	7	0	0	13	27.1
	その他		73	12	179	22	286	26.1
合 計			3,177	7,337	24,984	22	35,520	65.8
対 前 年 比 (%)			67.0	70.7	64.4	95.7	65.8	

乗用車および商用車車体 2008 年度 生産台数

車 種		国内	輸出	計	(単位:台) 対前年比 (%)
乗用車	セダン、ハッチバックタイプ	329,561	432,369	761,930	99.6
	ステーションワゴン	194,821	283,227	478,048	72.8
	ミニバンタイプ	96,847	8,073	104,920	178.3
	オフロードタイプ	26,182	253,156	279,338	75.2
	キャブオーバータイプ	218,977	1,979	220,956	71.9
商用車	ツープックスポバン	28,885	23,300	52,185	107.6
	キャブオーバーバン	113,942	33,738	147,680	86.9
	キャブオーバートラック	16,615	0	16,615	0.0
	ボンネットトラック(シングルキャブ)	0	19,303	19,303	87.7
	ボンネットトラック(ダブルキャブ)	0	51,857	51,857	87.5
合 計		1,025,830	1,107,002	2,132,832	86.7

特装車体 2008 年度 生産台数

車 種		基準外	大型	中型	小型	軽	国内計	輸出	合計	(単位:台) 対前年比 (%)
ダンプ車	リヤダンプ	0	2,705	4,737	5,494	2,489	15,425	10,293	25,718	76.4
	三転ダンプ	0	0	111	362	0	473	0	473	69.3
	深掘りダンプ	0	440	102	84	76	702	24	726	71.5
	その他	0	169	359	150	0	678	5	683	79.1
	石油類	0	276	481	87	0	844	174	1,018	82.4
タンクローリ	毒劇物	0	44	0	0	0	44	0	44	55.7
	散水・給水	0	70	343	94	0	507	215	722	95.8
	食品	0	2	1	0	0	3	0	3	75.0
	その他	0	60	1	1	0	62	15	77	137.5
	LPG	0	73	94	9	0	176	0	176	112.1
高圧ガスタンクローリ	その他	0	21	2	0	0	23	0	23	104.5
トラックミキサ車	アジテータ	0	959	170	80	0	1,209	168	1,377	55.1
	ドライ	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	飼料	0	159	33	3	0	195	0	195	77.1
粉粒体運搬車	バラセメント	0	258	1	0	0	259	12	271	54.7
	その他	0	48	0	0	0	48	0	48	84.2
消防車	消防ポンプ車	0	0	437	11	0	448	0	448	91.6
	梯子消防車	0	46	4	0	0	50	18	68	138.8
	化学消防車	7	7	18	1	0	33	17	50	113.6
	消防タンク車	0	0	71	0	0	71	0	71	102.9
	消防指揮・指導車	0	0	2	2	0	4	0	4	12.5
	その他	0	45	22	11	0	78	1	79	151.9
	ブームつき	0	73	76	5	0	154	7	161	66.8
コンクリートポンプ車	ブームなし	0	1	0	0	0	1	1	2	100.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
環境衛生車	じん芥車機械式	0	231	1,850	2,302	0	4,383	442	4,825	90.2
	じん芥ダンプ車(深掘)	0	0	0	26	65	91	0	91	112.3
	衛生車	0	79	658	217	0	954	11	965	85.5
	清掃車	0	205	244	38	0	487	22	509	99.6
	路面清掃車	0	48	29	24	0	101	0	101	98.1
	その他	0	11	41	18	0	70	21	91	108.3
	高所作業車	0	6	90	2,546	0	2,642	41	2,683	56.8
脱着コンテナ車	ダンプ式	0	358	735	190	28	1,311	7	1,318	74.5
	機械式	0	3	58	8	0	69	0	69	—
その他	トラッククレーン	46	9	1	0	0	56	282	338	174.2
	空港用作業車	17	79	2	52	0	150	0	150	105.6
	道路作業車	0	0	1	1	0	2	0	2	40.0
	除雪車	0	171	2	0	0	173	0	173	61.1
	穴掘建柱車	0	0	98	89	0	187	13	200	59.0
	レッカー車	0	0	0	2	0	2	0	2	40.0
	その他	0	140	24	50	0	214	10	224	56.7
合 計 ①		70	6,796	10,898	11,957	2,658	32,379	11,799	44,178	76.3
< 装置 >										
テールゲートリフト	取付架装台数 ②	0	75	1,017	3,811	234	5,137	7	5,144	81.7
	装置のみの生産数	0	529	3,237	11,125	2,206	17,097	36	17,133	87.2
クレーン付トラック	取付架装台数 ③	7	700	2,358	1,718	5	4,788	1,533	6,321	96.8
	装置のみの生産数	0	632	2,693	2,152	0	5,477	350	5,827	84.4
脱着コンテナのみの生産数		0	841	6,437	1,464	1	8,743	10	8,753	76.3
特装車体 + 装置 ①+②+③		77	7,571	14,273	17,486	2,897	42,304	13,339	55,643	78.7
対前年比 (%)		37.7	49.3	68.8	56.4	84.8	—	—	78.7	

※ 装置については、2008年度から別枠で集計しています。

特種車体 2008 年度 生産台数

車体の大きさ		大型		中型		ライト		小型		乗用車	軽	国内計	輸出	合計	対前年比 (%)
		トラック	バス	トラック	バス	トラック	バス	トラック	バン						
医療 防疫用	胸部レントゲン車	7	0	15	6	1	16	0	0	0	1	46	0	46	139.4
	胃及び胃胸部レントゲン車	50	15	4	0	0	0	0	0	0	1	70	0	70	97.2
	子宮がん検診車	3	0	4	1	0	1	0	0	0	0	9	0	9	225.0
	乳房検診車	3	1	4	0	1	0	0	0	0	0	9	0	9	180.0
	検診車	2	0	1	2	0	6	0	2	0	0	13	0	13	130.0
	産科検診車	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	3	—
	採血車	0	5	0	9	0	1	0	0	1	0	16	0	16	106.7
	動物防疫防疫車	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	—
	その他	6	0	1	1	0	1	0	0	1	0	10	0	10	333.3
	合計	77	20	35	20	2	35	0	3	3	1	113	0	113	100.0
保健 用	患者輸送車	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	2	18.2
	車いす移動車	0	1	0	5	0	107	0	598	5,137	0	5,848	0	5,848	112.7
	入浴車	0	0	0	0	0	0	0	390	0	33	423	0	423	167.2
	寝具乾燥車	0	0	0	0	3	0	2	2	0	0	7	0	7	58.3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	40	1	41	42.7
緊急 用	救急車	0	0	0	0	0	1	0	25	49	0	75	491	566	128.6
	高規格救急車	0	0	0	0	0	144	0	1	361	0	506	0	506	100.6
	ドクターズカー	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	100.0
	血液輸送車	0	0	0	0	0	0	0	18	2	0	20	0	20	55.6
	救急工作車	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3	0	3	300.0
	警報車	0	0	0	0	0	37	0	377	1,320	84	1,818	0	1,818	61.3
	警報パトロールカー	0	0	0	0	0	0	0	0	1,493	12	1,505	10	1,515	91.7
	運送車	0	0	0	2	0	11	0	0	1	0	14	3	17	63.0
	消防指圧車	0	0	2	0	4	4	3	28	14	1	56	0	56	62.9
	橋梁車	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	—
公務 用	その他	2	0	0	0	3	0	0	19	67	0	91	0	91	79.8
	図書館車	0	0	1	0	5	11	2	2	0	0	21	0	21	123.5
	移動電話車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	トイレ車	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	20.0
	野犬捕獲車	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1	6	0	6	120.0
作業 工 作 用	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	32	11	43	0	43	195.5
	ガス作業車	0	0	7	0	5	0	1	28	3	0	44	0	44	118.9
	水道作業車	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	2	15.4
	下水作業車	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3	0	3	30.0
	道路維持作業車	0	0	1	0	1	0	2	11	85	0	101	0	101	61.6
	通信作業車	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	33.3
	林野作業車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	水防作業車	0	0	0	0	0	0	0	2	13	0	15	0	15	187.5
	機械工作車	0	0	3	0	6	0	0	0	0	0	9	0	9	42.9
	外線工事車	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	20.0
検査 測 定 用	電源車	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	7	0	7	—
	照明車	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	4	50.0
	その他	1	0	9	0	0	1	5	14	7	21	58	0	58	72.5
	測定車	0	2	1	0	1	3	0	28	13	0	48	0	48	77.4
	検査車	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3	0	3	23.1
	試験車	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	50.0
	観測車	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	10.0
	探査車	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	4	0	4	133.3
	その他	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	0	3	75.0
	合計	1	2	17	1	7	14	6	53	24	21	118	0	118	100.0
放送 通 信 用	衛星中継車	0	0	1	0	3	5	0	3	0	0	12	0	12	63.2
	テレビ中継車	57	0	0	1	2	1	0	3	1	0	65	0	65	118.2
	通信中継車	0	0	0	0	1	8	0	2	1	0	12	0	12	80.0
	ラジオ中継車	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	3	0	3	150.0
	版材車	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3	0	3	27.3
	その他	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	3	150.0
	移動販売車	0	0	0	1	2	1	1	3	0	8	16	0	16	94.1
	食堂車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	広報宣伝車	0	0	3	0	1	8	1	5	0	3	21	0	21	175.0
	商品展示車	0	0	0	0	2	0	1	8	0	3	14	0	14	66.7
サー ビス 用	移動広告車	0	0	0	0	0	1	0	6	0	0	7	0	7	—
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	移動銀行車	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3	0	3	300.0
	現金輸送車	0	0	1	0	0	0	101	315	2	7	426	0	426	111.8
	霊柩車	0	0	0	3	0	5	0	16	25	0	48	0	48	92.3
	教習車	0	0	0	0	0	0	0	0	197	0	197	0	197	19,700.0
	ハウスクリーニング車	0	0	0	0	1	0	0	9	0	0	10	0	10	76.9
	活魚運搬車	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	16	88.9
	事務室車	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	4	0	4	80.0
	競走馬運搬車	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10	125.0
輸 送 用	タクシーキャブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	人員輸送車	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1,163	1,165	188.2
	その他	0	0	2	0	0	1	2	3	16	3	27	68	95	190.0
	キャンピング車(自走用)	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4	0	4	50.0
	移動ハウス車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	その他	0	2	0	13	0	1	12	3	0	0	31	0	31	140.9
	合計	161	26	71	46	49	390	135	1,940	8,890	190	11,898	1,737	13,635	101.8
	対前年比 (%)	108.8	56.5	98.6	117.9	92.5	32.5	71.1	75.8	99.7	106.7	—	—	101.8	—
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

バン型車体 2008 年度 生産台数

																						(単位:台)	
材 質 車の大きさ		スチール製					アルミ製					FRP製					合 計					対前 年 比 (%)	
		大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	小計	大型	中型	小型	軽	合計		
用 途																							
ドライバン		4	11	6	0	21	2,042	2,921	11,943	196	17,102	0	0	2	8	10	2,046	2,932	11,951	204	17,133	77.1	
冷凍 車	機械式	0	0	669	48	717	1,182	3,615	4,963	451	10,211	181	2,441	2,286	128	5,036	1,363	6,056	7,918	627	15,964	108.1	
	蓄冷式	0	0	0	0	0	0	1	3	0	4	0	17	81	11	109	0	18	84	11	113	118.9	
	小計	0	0	669	48	717	1,182	3,616	4,966	451	10,215	181	2,458	2,367	139	5,145	1,363	6,074	8,002	638	16,077	108.2	
保冷車		0	0	53	14	67	44	146	1,298	100	1,588	30	80	382	41	533	74	226	1,733	155	2,188	47.8	
オープンバン		0	0	0	0	0	13	81	262	0	356	0	0	0	0	0	13	81	262	0	356	65.0	
ウ ィ ン グ	ドライ	0	5	0	0	5	7,949	6,558	875	0	15,382	/	/	/	/	/	7,949	6,563	875	0	15,387	74.3	
	冷凍 (機械式)	0	0	0	0	0	756	332	35	1	1,124	/	/	/	/	/	756	332	35	1	1,124	87.3	
	小計	0	5	0	0	5	8,705	6,890	910	1	16,506	/	/	/	/	/	8,705	6,895	910	1	16,511	75.1	
ウォークスルーバン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
ボトル運搬車		0	0	45	0	45	0	968	1,152	0	2,120	0	0	0	0	0	0	968	1,197	0	2,165	84.2	
その他		0	0	0	0	0	6	2	13	0	21	0	0	0	0	0	6	2	13	0	21	12.0	
合 計		4	16	773	62	855	11,992	14,624	20,544	748	47,908	211	2,538	2,751	188	5,688	12,207	17,178	24,068	998	54,451	81.3	
対 前 年 比 (%)		26.7	94.1	87.2	96.9	87.1	78.7	82.1	80.0	90.8	80.4	93.8	93.3	91.7	39.9	88.7	78.8	83.6	81.4	73.4	81.3		



1-3月期のGDP成長率が発表になり、なんと戦後最悪の落ち込みとのことですが、ここが底で年度後半には回復の見込みという見解が多く、先の全く見えない状況からは脱出しつつあるようです。

しかしながら、中大型商用車販売は相変わらず厳しい状況が続き、車体業界はまさに生き残りの正念

場を迎えようとしています。われわれの日常生活に必要な不可欠な「働くクルマ達」の優れた固有技術が途絶えてしまう危機さえ感じる状況です。

このような中、当会の通常総会が終了し、新役員体制で新たな活動を開始しました。「会員支援の充実」を最優先課題とし、特に技術的支援と中小企業経営支援を充実させていきますので、従来同様のご支援、ご協力をお願いします。(橋本)

広報委員会委員長(兼編集委員長)交代のお知らせ

●退任挨拶

日産車体㈱取締役社長 高木 茂

2年間、広報委員会委員長を務めさせていただきました。新春増刊号を含めて年5回の「車体NEWS」は対外的に発信する広報活動の大切な手段であり、広報委員会委員の皆様、また記事を担当された方々にはその作成にご苦勞をかけた大変感謝しております。

今後は、安田新委員長のもと、広報活動/車体NEWSを更により良いものにしていただきたいと思います。ありがとうございました。



●新委員長就任挨拶

関東自動車工業㈱取締役会長 安田 善次

この度、高木 茂氏に変わり、新たに委員長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。



車体工業会事務局 新任挨拶

業務部次長
志村 和夫



本年の4月より当会にお世話になっております。

環境委員会工場環境分科会、トラック部会、バン部会の事務局を担当致します。自動車車体工業発展のため会員皆様方の手となり足となり働きますのでよろしくお願い申し上げます。

■表紙写真について

「CX スーパーロングボディ 33人乗り」

三菱ふそうトラック・バス(株)製

大勢乗れる33人乗りは、団体のお客様や大人数の送迎に最適。ハイパワーエンジン(132kW)を搭載し、走行性能も充実。ドライバーも乗客も、余裕を持って移動できます。

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。

送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査(独)検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会および自動車関係団体となっております。

広告掲載会社

いすゞ車体株式会社	48
住友スリーエム株式会社	49
株式会社損保ジャパン	表3
交通エコロジー・モビリティ財団	表4

車体NEWS 夏号 2009

2009年6月15日発行

発行所 社団法人 日本自動車車体工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

TEL 03-3578-1681

FAX 03-3578-1684

発行人 橋本 茂

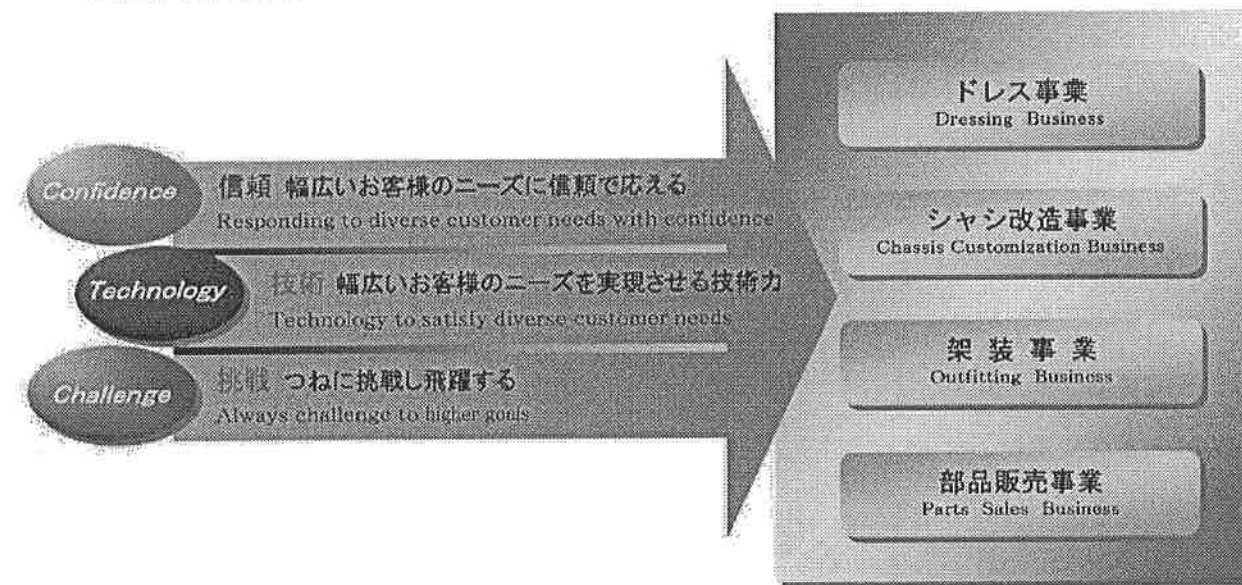
制作 NICS

ISUZU
BODY CORPORATION

IBC

【いすゞ車体株式会社は】

ISUZUの全ての標準車型に対して、高品質なドレス(仕様変更)と改造・架装をベストな状態で提供できる会社です。



【私たちは】

さまざまなドレス(仕様変更)/シャシ改造/架装のご要望にフレキシブルに対応し、人と社会のあらゆる生活の場で活躍するISUZU車に常に万全のクオリティをお約束します。

【事業内容】

- ◆ドレス事業
・幅広いニーズに敏速かつ低コストでカスタマイズ
- ◆シャシ改造事業
・幅広いお客様のニーズに高レベルの改造技術で対応
- ◆架装事業
・豊かな経験と技術でお客様のニーズに対応
- ◆部品販売事業
・シャシ改造及び架装技術から創生されるオリジナル商品・部品の販売

いすゞ車体株式会社

ISUZU BODY CORPORATION

〒252-0806 神奈川県藤沢市土棚1-1

TEL 0466-45-2301(代表)

URL: <http://www.isuzu.body.co.jp/>